

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

# 自己評価報告書

令和5年6月30日現在

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

令和5年7月31日作成

# 目 次

<b>1 学校の理念、教育目標</b> .....	<b>1</b>	4-13 就職率 .....	2 5
<b>2 本年度の重点目標と達成計画</b> .....	<b>2</b>	4-14 資格・免許の取得率 .....	2 6
<b>3 評価項目別取組状況</b> .....	<b>3</b>	4-15 卒業生の社会的評価 .....	2 7
<b>基準 1 教育理念・目的・育成人材像</b> .....	<b>4</b>	<b>基準 5 学生支援</b> .....	<b>2 8</b>
1-1 理念・目的・育成人材像 .....	5	5-16 就職等進路 .....	2 9
<b>基準 2 学校運営</b> .....	<b>7</b>	5-17 中途退学への対応 .....	3 0
2-2 運営方針 .....	8	5-18 学生相談 .....	3 1
2-3 事業計画 .....	9	5-19 学生生活 .....	3 3
2-4 運営組織 .....	1 0	5-20 保護者との連携 .....	3 5
2-5 人事・給与制度 .....	1 2	5-21 卒業生・社会人 .....	3 6
2-6 意思決定システム .....	1 3	<b>基準 6 教育環境</b> .....	<b>3 8</b>
2-7 情報システム .....	1 4	6-22 施設・設備等 .....	3 9
<b>基準 3 教育活動</b> .....	<b>1 5</b>	6-23 学外実習、インターンシップ等 .....	4 1
3-8 目標の設定 .....	1 6	6-24 防災・安全管理 .....	4 3
3-9 教育方法・評価等 .....	1 7	<b>基準 7 学生の募集と受入れ</b> .....	<b>4 5</b>
3-10 成績評価・単位認定等 .....	2 0	7-25 学生募集活動 .....	4 6
3-11 資格・免許取得の指導体制 .....	2 1	7-26 入学選考 .....	4 8
3-12 教員・教員組織 .....	2 2	7-27 学納金 .....	5 0
<b>基準 4 学修成果</b> .....	<b>2 4</b>	<b>基準 8 財 務</b> .....	<b>5 1</b>
		8-28 財務基盤 .....	5 2
		8-29 予算・収支計画 .....	5 4
		8-30 監査 .....	5 5

8-31	財務情報の公開.....	5 6
<b>基準 9</b>	<b>法令等の遵守.....</b>	<b>5 7</b>
9-32	関係法令、設置基準等の遵守.....	5 8
9-33	個人情報保護.....	5 9
9-34	学校評価.....	6 0
9-35	教育情報の公開.....	6 2
<b>基準 10</b>	<b>社会貢献・地域貢献.....</b>	<b>6 3</b>
10-36	社会貢献・地域貢献.....	6 4
10-37	ボランティア活動.....	6 6
<b>4</b>	<b>令和4年度重点目標達成についての自己評価.....</b>	<b>6 7</b>

# 1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>1. 建学の理念</p> <p>本学園の建学の理念は、「優れたプロは、優れた人格を有する。」「身体で覚えた技術は、一生を貫く。」である。これは、創立者の教育に対する思いであり、学校教育のバックボーンである。また、時代を越えて継承し、学校の個性を形成し、カリキュラム編成に反映されるべきものである。さらに、将来構想を策定する際にもこの基本理念をもとに考案されるべきものである。</p> <p>2. 教育理念・目的・育成人材像等</p> <p>理念・目的・育成人材像は学校運営、教育活動の基本となるもので内部的には結集軸となり、外部的には差別化のツールになるべきものである。理念・目的等を実現するためにはフレームワークとしてのカリキュラムが整合性(目的適合性)をもっているべきである。</p> <p>3. 2つのキー・コンセプト</p> <p>本校は、下記の2つのコンセプトで、どの学生にも在校中に成功体験を積みませ、「やればできる」という達成意識を持たせ、以って社会に積極的に貢献できるような人間教育を確立している。</p> <p>① 社会に有為な人材育成のために、法定時間を超える専門教育を施し、「身体で覚える授業」による実技教育に取り組んでいること。</p> <p>② 「優れたプロは、優れた人格を有する」という理念のもとに人格を育てる教育を行っていること。</p>	<p>1. 本校の目的</p> <p>本校では、実社会での即戦力を養成するため、体感・体験・体得を重視し、「身体で覚える授業」を実践し、また「礼節」「明朗」「努力」「誠実」「トライ」を校訓に、学生が持つ個性や自主性を尊重し、社会に進出できるクリエイター(人材)を育成することを目的としている。</p> <p>2. 本校の育成人材像</p> <p>本校は学校教育法に基づき、服飾造形に関する基礎理論と高度な技術並びに豊かな感性と創造性を備えた専門家としてファッション産業界に寄与し、同時に深く社会に貢献できる実践的な人材の育成を目的とする(学則第3条)。</p> <p>3. 本校のカリキュラムの特徴</p> <p>少人数制の担任指導で、学校生活から将来設計や就職活動などもきめ細やかにサポートするなど、一人ひとりの個性を見出して丁寧に潜在性を引き出す個別指導を行なっている。本校オリジナルブランドの期間限定ショップ【incubate】や「ファッションショーincubate collection」などの運営を中心に学生が主体的に学ぶ実践教育を軸としたカリキュラム構成が本校の特徴である。</p>

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>4. 理念・目的・育成人材像の課題</p> <p>時代の風潮による規模の拡大化と教育内容の総合化に伴い、育成されるべき人材像やスキルは変更を迫られる可能性がある。建学の理念は不変的なものであるが、定期的に、教育の理念・目的・育成人材像は、自己点検・評価を行うことが必要だと考えられる。</p>	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 2 本年度の重点目標と達成計画

令和4年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>令和4年度学校目標</p> <p>【その先の未来を創る 一心から楽しもう 全てやりきろう】</p> <p>声を大にして自慢できる専門学校武蔵野ファッションカレッジらしさを確立する。</p> <p>武蔵野らしさとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互い協力しあいながら、生き生き仕事ができる学校 の中で</li> <li>・常に新しいことにチャレンジし、自らが成長し続ける教員 がいて</li> <li>・「好き」を現実なものにでき、学校に対する満足度の高い学生 がいる事である。</li> </ul> <p>ひとりひとりがその先の未来を想像し、同じ目標に向かい心から楽しんで現状に立ち向かいやりきることで、学生数を増やすという目標の達成を目指す。</p>	<p>《優先課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容の見直し</li> <li>・就職支援強化</li> <li>・学生の学校満足度向上</li> </ul> <p>a. 教学改革計画</p> <p>昨年度より取り掛かっている、カリキュラム改革や卒業生との連携を強化した授業体制をより強化していく。そして「好き」を現実のものにできる教育現場、学校満足度の高い学生を増やすことを目指す。さらに他分野の併設校を持つ後藤学園の特色を最大限に活かすため、昨年始めたワークショップの開催を継続し、各校との交流を深める。</p> <p>b. 学生募集対策</p> <p>入学者増員を優先課題とし、積極的な広報活動を継続する。</p> <p>ガイダンスへの教員派遣、出張授業依頼高校の新規開拓、SNS を利用した宣伝活動などで、広く本校の知名度を上げていく。</p> <p>体験入学や説明会を学生主体で運営できる仕組みを充実させる。</p> <p>c. 人事政策</p> <p>昨年度の常勤教員の解職に伴い、若手の採用、非常勤講師の見直しを図ったため、今年度は組織の土台固めを行うことを最優先とする。居心地のよい学校、職場の確立を目指す。</p> <p>d. 経費削減計画</p> <p>学用品代や各イベント経費の見直しを行うことで、昨年度、予算を大幅に削減することができた。適切な予算執行を継続して行う。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

### 3 評価項目別取組状況

## 基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の教育目標は「優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと」と定めている。実践力の定義としては「ファッションの専門性と社会人基礎力が融合したもの」としている。</p> <p>インターネット等のテクノロジーの進化により人々の生活が変わりファッション・アパレル業界も変わってきている。時代に合った職業教育の実現のために企業と連携し教育のレベルアップを目指す。</p>	<p>「一人ひとり」をキーワードに、一人ひとりとの距離感を大切にし、一人ひとりが達成感を味わえる教育の場とし、一人ひとりと向き合う就職指導を心がける。すなわち、個別最適な学習と協働的な学習の両立を目指す。</p> <p>同時に、ファッション業界と整合性をもった人材育成としていくため、企業との連携を積極的に活用していく</p>	<p>《3つのポリシー》</p> <p>アドミッション・ポリシー 【入学者受け入れの方針 両学科共通】 学科共通のものとして設定</p> <p>ディプロマ・ポリシー 【卒業時の到達目標】 学科ごとに設定</p> <p>カリキュラム・ポリシー 【教育課程編成・実施の方針】 学科ごとに設定</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------



## 1-1 理念・目的・育成人材像

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか		<p>理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学校案内書で周知している。</p> <p>学校の教務担当教員を中心として科目の見直し、再編成を随時実施している。</p> <p>関連業界の求める人材像に適合するために学科ごとに教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの改編等の検討を行っている。</p> <p>学校案内書に明記するとともに学内に銘板で掲示する事により周知徹底を図っている。</p>	<p>時代の風潮と教育内容の総合化に伴い、育成されるべき人材像やスキルは変更を迫られる可能性は恒常的に存在する。時代や社会の変遷とともにその有用性は常にチェックされなければならない。内部的には結集軸となり、外部的には差別化のツールとなり得る。</p>	<p>建学の理念は不変的なものであるが、教育の理念・目的・育成人材像、カリキュラムに整合性(目的適合性)が備わっているか、定期的に自己点検・評価を行っていく。</p> <p>業界のニーズを把握し、卒業後に自信を持って活躍できるように定期的なカリキュラムのチェックのため、年2回の会議を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Student Hand book</li> <li>・学校法人後藤学園規程集</li> <li>・学校案内書</li> <li>・武蔵野ファッションカレッジホームページ</li> <li>・諸会議の議事録</li> </ul>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<p>アパレルプロフェッショナル科(以下 AP 科と省略)はデザイン・技術系専門職をめざし、「服作り」の技術を学ぶ学科である。</p> <p>① 実践を通して感性を表現する  ② 作品制作を通じて計画性を学ぶ  ③ コミュニケーション能力を高める</p> <p>ファッションスタイリング科(以下 FS 科と省略)アパレル業界で流通・販売のプロフェッショナルやスタイリストをめざし、「トータルコーディネートのファッション提案」を学ぶ学科である。</p> <p>① コミュニケーション能力を伸ばす  ② 計画性を学ぶ  ③ 美意識を磨く</p> <p>両学科とも業界のニーズである『社会人基礎力』と『ファッションの専門性』を兼ね備えた人材育成を行っている。</p>	<p>両学科とも教育課程編成委員会を設置し、業界での業務従事者の意見を積極的に聴取している。意見を授業内容に反映していくには、学内での人材では不足となる部分もあるが、企業から協力を仰ぎ実現ができていく。</p>	<p>業界で希求される人材育成が出来るように、定期的に教育課程編成委員会を開催し、意見を聴取し、授業やカリキュラム編成に反映していく。</p> <p>企業との連携授業を積極的に導入していくとともに、各授業が連動し呼応するような、立体感のある授業を目指す。</p> <p>育成人材像について内外での理解と協力を得るために、令和6年度より、シラバスフォーマット及びガイドラインをリニューアルする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Student Hand book</li> <li>・学校法人後藤学園規程集</li> <li>・学校案内書</li> <li>・武蔵野ファッションカレッジホームページ</li> <li>・諸会議の議事録</li> </ul>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか		<p>学生が商品を作り、店舗設営から販売までを行う実践的授業【期間限定シヨップ incubate】や学びの集大成を発表するファッションショー【incubate collection】等の運営は学生主体で計画・実行・検証・修正し、就職後の現場を意識した実践的プログラムとして実施している。</p> <p>それぞれの学科で企業との連携授業を実施し、職業教育とキャリアプランの充実をはかっている。</p>	<p>本校の教育理念である「身体で覚える授業」を実現するために、実習は強化していきたいところであるが、講義・演習とのバランス、カリキュラムの適合性など大きな部分での検討が急務と心得ている。</p>	<p>教育課程編成委員会にて情報と意見聴取を行い、カリキュラム会議で検討する。学生ひとりひとりが成長を実感できるような課題設定と授業計画、評価を実感できるようなシステム構築を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Student Handbook</li> <li>・学校法人後藤学園規程集</li> <li>・学校案内書</li> <li>・武蔵野ファッションカレッジホームページ</li> </ul>
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか		<p>18歳人口の推移、専修学校の第7分野（服飾・家政分野）の在籍者数、本学の市場占有率などから、入学者数の試算をした上で中期計画・事業計画を策定している。</p> <p>他校が在籍数を減らしている時勢において本校は健闘している。安定した学校運営のために学内の協力体制は確立できている。</p>	<p>昨年度からのキーワード「一人ひとり」は本校教職員に浸透しているが、学園の内外、保護者・業界へのさらなるアプローチは必須である。</p>	<p>教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、その他就職先企業等からの情報収集を積極的に行っていく。委員会への誠実な報告と真摯な取り組みで、信頼を築き協力体制を堅固なものにしていく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>建学の精神、教育の理念は、学校教育のバックボーンであり、連綿と受け継がれてゆくものである。将来構想もこの基本理念を元に策定されるべきものであり、最終的にはカリキュラム編成に反映される。</p> <p>理念・目的・育成人材像は学校案内書や Student Hand Book にて提示されている。これらが学校・教職員に定着し、学生と保護者に教育活動として還元できているか、授業アンケート等での調査・検証が必要である。</p>	<p>ファッション業界では、柔軟な思考を持ち、バイタリティのある人材が求められる。本校は学生一人ひとりが持つ個性や自立性を尊重し、社会に進出できるクリエイター（人材）へと育成することを最大の目的とする。</p> <p>中期的構想から単年度の運営指針である事業計画へ、データから数値目標を設定して計画していくが、状況を鑑みて可能な軌道修正は逐次施す。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

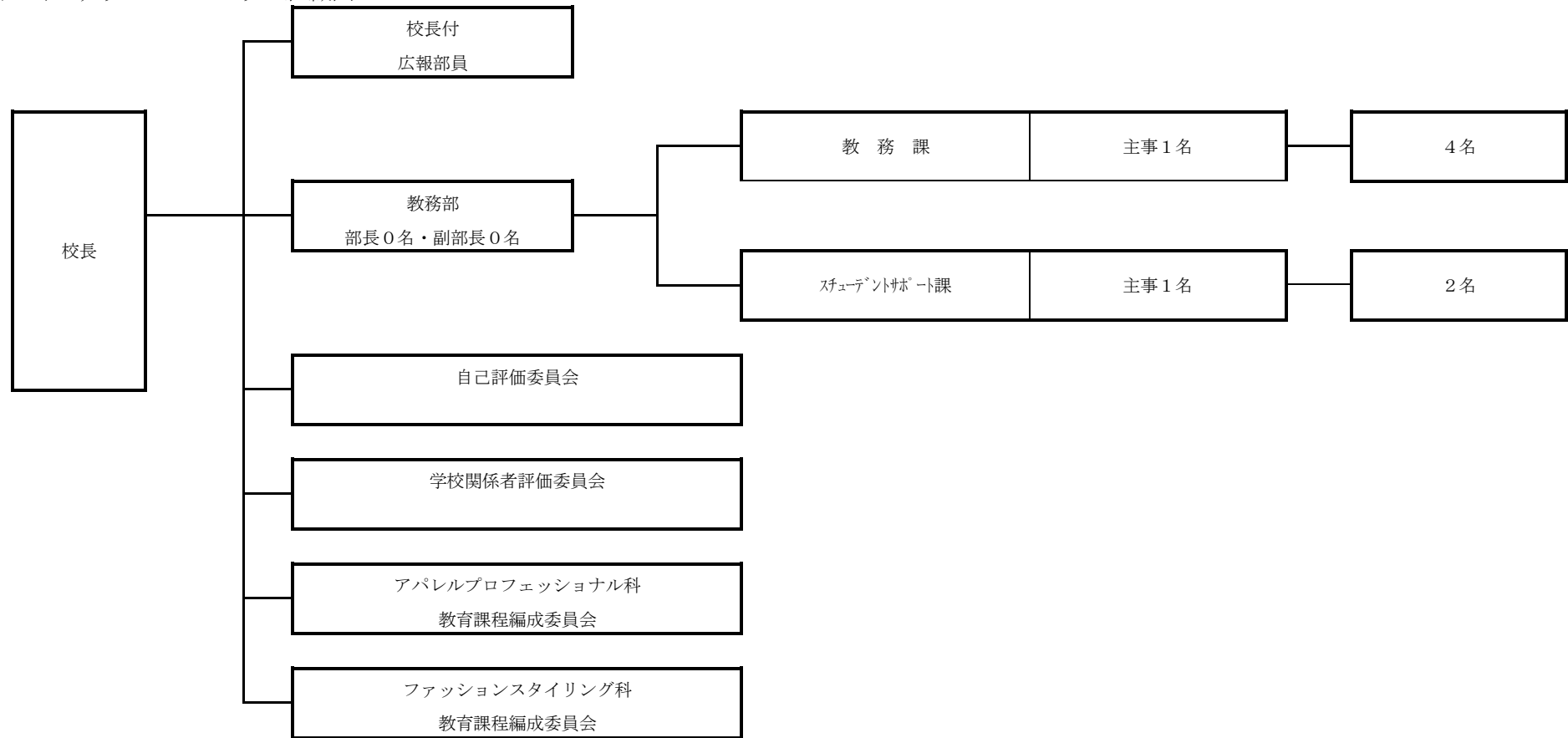
総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業の他に進路ガイダンスへの教員派遣、出張授業や学校見学への対応、SNS や広告・印刷媒体の作成まで、教務事務から学生募集に関する業務も教員が担う。運営体制は余裕のある状況ではないが、協力し合える組織としての基盤は構築できた。各担当業務のルーティーン化が進むことでさらなる効率化と改善が図れるはずである。全員で取り組む体制で業務を進め、教務部内のミーティングを適宜行い共通認識の上で学校運営を行った。人力的な不足は助手の採用で補い学校運営に支障はなかった。</p>	<p>多岐に渡る業務のスケジュールリング・フォーマットの確立とスムーズな情報共有、業務連携に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員数(令和5年5月1日現在)(表 2-1)</li> <li>・組織編成</li> <li style="padding-left: 20px;">ファッションカレッジ教務部組織図(表 2-2)</li> </ul>

(表 2-1) 教員数 (令和 5 年 5 月 1 日現在)

	常勤教員等				非常勤 教員	学生	学生数÷ 常勤教員等
	校長	教員	教務 職員	計			
男性		4	0	4	6	22	—
女性	1	4		5	12	71	—
合計	1	7	1	9	18	93	10.3

\* 教員とは専修学校設置基準が定める要件を満たす者を計上する。

(表 2-2)ファッションカレッジ組織図



## 2-2 運営方針

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか		1.「礼節」 2.「明朗」 3.「努力」 4.「誠実」 5.「トライ」 という校訓の共有のため「Student Hand book」の巻頭に掲載し、職員会議等で各教職員にも周知徹底されている。 学校の運営方針については、「武蔵野ファッションカレッジ学則」に規定している。	ファッションカレッジの諸規定は、教育目標および輩出すべき人材像に整合して策定されているが、関係業界の求める人材像との適合性は随時確認が必要である。 学園全体の方針と目的、適合性のある学校運営方針は職員会議等で伝達され、学校を構成する教職員が共有すべきものである。	学園全体の教育理念と本校校訓との論理的な理解を推進する。 各教職員の段階で、学校運営方針と各種諸規定・日常業務との擦り合わせを行う。	・学校法人後藤学園 規程集 ・ Student Hand Book

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の目標→学校の目標→学校の運営方針等はそれぞれ、後者が前者の達成のための手段となるため、目的と手段の適合性を確認し、有用性を保障する必要がある。学園の理念や人材像に沿った教育をカリキュラムに反映させた上で、授業を計画し、運営するべきである。	この人材像を達成するためにクラス担任制を敷き、学生のニーズや将来の活躍分野に対応したコース及び授業構成を設定している。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------



## 2-3 事業計画

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか		<p>中期計画及び事業計画は各学校で策定し、本部と各学校との懇談会⇒常務会(内部理事会)⇒評議員会 ⇒理事会で承認される。</p> <p>事業計画には予算、事業目標を明示している。事業計画に則って、各学校は年間スケジュールを遂行する。</p> <p>各学校の事業計画の執行・進捗状況は、法人事務局主催の連絡会に於いて、確認及び見直しを行っている。</p>	<p>次年度予算編成にあたって、各校の事業計画は基礎的な積算根拠となるものである。</p> <p>理事会で承認した事業計画に沿って、予算執行がなされる。</p> <p>各学校の中期計画・事業計画は学園の基本方針を受けて調整する必要がある。</p>	<p>当該年度の業務遂行が計画に準拠して実行されたかどうかは5月の理事会における決算報告に先立って行われる事業報告により確認をする。</p> <p>計画と実績の比較から差異の分析、原因究明といったマネジメントサイクルを確立する。</p> <p>学園全体の計画と合致するように、方策を確定していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画書</li> <li>・事業報告書</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>事業計画(plan)に基づいて予算編成がなされ、実際年間の教育が実行(do)され、事業報告書によりチェック(check)され、次年度への改善活動(action)を提案するというマネジメントサイクルとなる。学園全体の改善計画が策定され、それに基づいた事業計画となる。</p>	<p>今後は、①計画と実績の比較 ⇒②差異分析⇒③原因の究明⇒④責任の所在の明確化というマネジメントサイクルを実施する必要がある。学園の経営改善計画検討委員会等との連携の中で、新たな改善計画を検討する必要がある。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 2-4 運営組織

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか		<p>理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。</p> <p>理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。</p> <p>寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正している。</p>	適切に運営しており、特記事項なし。	適切に運営しており、特記事項なし。	・学校法人後藤学園 規程集
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか		<p>学園の組織規程の中で、学校運営に必要な事務及び教学組織の整備を明記している。本校の教学組織としては、校長のもとに教務部があり、そのもとに</p> <p>①教務課 ②スチューデントサポート課の各組織がある。</p> <p>部課長制を敷き、それぞれの責任担当を明確化している。</p> <p>各種の規程は整備され適切に運営している。</p>	適切に運営しており、特記事項なし。	適切に運営しており、特記事項なし。	・学校法人後藤学園 規程集 ・Student Handbook ・職員会議議事録

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	<input type="checkbox"/> 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		事務処理に関わる研修会等を適宜、受講し、能力開発と資質の向上を図っている。	研修会への参加と業務との時間的制約とスケジュールの調整が課題である。	更なる効率化と人員増員の検討を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人はその課せられた社会的使命を果たすために必要な管理運営組織を置いている。「理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する」（私立学校法第36条第2項）と規定されているように、意思決定のプロセスを明確にし、執行の結果についての説明責任を果たすことが必要である。	学校がその業務を適正かつ効率的に遂行するためには内部統制システムを構築し、正当な手続きにもとづく効率的な管理運営に努めるとともに、学校運営に関する法規を遵守することが必要である。

最終更新日付	2023年6月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 2-5 人事・給与制度

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか		昇格は人事評価をもとに、学校長から候補者の推薦を受け、法人事務局で協議の上決定となる。 「学校法人後藤学園給与規程」および基本給与表に基づいて運用される。 採用人事は、理事長、法人事務局長、各校長等の面接により協議の上、決定される。 毎期、決算を行い、人件費の総体や各部門別データが開示されている。	適切に運営しており、特記事項なし。	適切に運営しており、特記事項なし。	・学校法人後藤学園規程集 ・決算書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事評価制度の運用により学校への貢献、教員としての研鑽、学生への還元という観点から、教員自信が目標設定し、実行する。上級者からの助言を得て改善するという、PDCA サイクルが定着してきている。	

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 2-6 意思決定システム

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか		① 学校と法人事務局との会議で決定したことは ② 常務会(内部理事会)で議題の資格審査をし ③ 評議員会の諮問を受け ④ 理事会で最終決定される。 各部署、部課長制を採用し、校長のリーダーシップが発揮しやすい体制を整備している。	理事長のリーダーシップが発揮できるためには、組織としてのガバナンス(アカウントビリティとディスクロージャー)が必要である。 また、法人事務局と各学校との会議等を通じて、双方の相互理解を深めるべきであろう。 組織論的には、各階層とも権限の委譲と責任の体系および職務内容の明確化の共通認識が必要である。	学校の現場の意見が反映されるような風通しのよい組織の構築が必要である。 学校の職員会議での各教職員の権限と責任の明確化と周知が望まれる。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教職員が創意工夫し、自らの学校のことは自分たちで決定するというような意識付けと組織の構築望まれる。	各教職員が創意工夫を発揮するためには、日常のコミュニケーションを図り、問題意識の共有することが重要である。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 2-7 情報システム

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか		学生情報等の管理は法人事務局において一元管理している。セキュリティ管理ソフトを導入し、万全の状態になっている。	使い勝手の部分で少々古さは感じる。学生情報と募集関連の情報システムの統合が検討されている。	学生情報と募集関連の情報システムの統一化は検討に上がっているが、不具合というほどの不便はなく、統合することが必ずしも必要ではない。	・学校法人後藤学園規程集

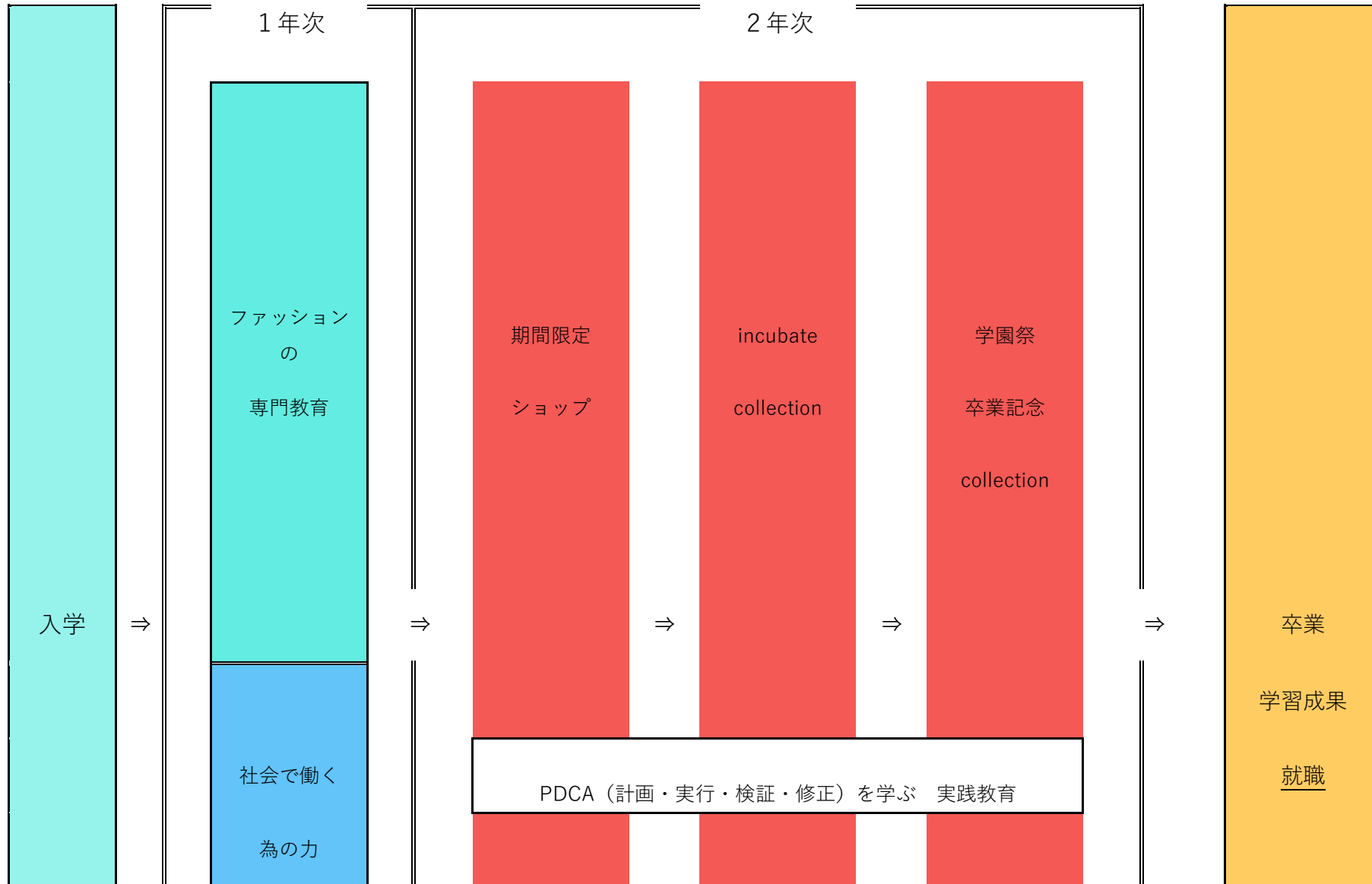
中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報インフラの構築、およびその保守は、学園全体の広報、教務、学生生活、就職などの教育機能の基盤としての重要性を有している。	法人事務局において一元管理しており、セキュリティ管理ソフトを導入して万全の状態である。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>           昨年は企業との連携授業を発展させ、職業教育の充実と本学の特徴作りに取り組んだ。企業側も社会貢献として継続した協力をしていきたいと言って頂き今後の発展が期待できる状況となった。         </p> <p>           今年度は新たな企業も参画していただき、より充実した協定体制が構築できつつある。         </p> <p>           各イベントの委員を立て、学生中心の運営としたところ、全体の参加意識の活性化につながった。         </p> <p>           「Incubate collection」「期間限定ショップ」「学園祭」も昨年度から運営システムをリニューアル、実践的な教育活動の新たな礎石を築くことができた。予算も鑑みた上での総体性のある実行を継続する。         </p>	<p>           企業との連携授業の継続的实施。企業側が協力をしやすい運営方法の検討。         </p> <p>           昨年度から「一人ひとり」をキーワードに掲げている。一人ひとりとの距離感を大切に、一人ひとりが達成感を味わえる教育の場であること、一人ひとりと向き合うことを心がける。就職指導や平素の授業、イベントなど様々な場面で個々の学生との交流を大切にしていくことに引き続き注力していく。         </p> <p>           武蔵野の教育の根幹である「ショップ」「ショー」「学園祭」の運営体制を昨年度見直してから、2年目の取り組みである。昨年の反省を踏まえて組織構築に取り組む。すなわち、個別最適な学習と協働的な学習の両立を目指す。         </p>	<p>           ・表 3-1) 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス         </p>

(表 3-1) 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス







最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 3-8 目標の設定

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか		学科毎に、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」を整備し、学校案内書や Student Hand book に掲載している。	学科に拠って教育課程の編成、必要とされる資格は異なる。恒常的に時代に即した見直しが必要とされる。	学科毎の特色ある授業構成が業界の現状に適合しているか、教務部で審議後、教育課程編成委員会で意見聴取を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内書</li> <li>Student Handbook</li> </ul>
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか		1年次は基礎的な知識・技術を習得、2年次は応用技術による制作や全体的なファッション業界の動向を習得。 AP科は「デザイナーやパタンナーなど技術系スペシャリストを育成する」こと、FS科は「アパレル業界で通用するスタイリストやファッションアドバイザーを育成する」ことが目的である。この人材像に基づき2年間の課程が設定されている。	学科に拠って到達目標・教育到達レベルは異なる。恒常的に時代に即した見直しが必要とされる。	1年次と2年次の「必修科目」、「選択科目」、「特別実習科目」の内容的な区別と学年配当の整合性を教務部で審議後、教育課程編成委員会で意見聴取を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内書</li> <li>Student Handbook</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育目標、育成人材像は、時代の変化、ライフスタイルの変化に伴う消費者ニーズの個性化・多様化・高度化、イノベーションによる業態変化に対応できるための基礎教育の充実が必要。</p> <p>各科の育成人材像の相違に応じた教育目標や教育内容をより明確にすべきである。</p>	<p>授業内で徹底しているのが、学園の基礎理念である「体で覚える」こと。</p> <p>1).「感性」を磨き表現する力 2).作業を「計画的」に進める力 3).スタッフとうまく「コミュニケーション」を取る力など、すべて実践で身につけるものであり、多くの時間を実習に割いている理由である。業界で活躍するプロフェッショナルを多く講師に迎え、現場に直結する実践的な授業を展開している。学生のニーズと業界のニーズの双方を補完する授業構成を実現する。</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
	<p>AP 科は、1年次で「デザイン表現の基礎となる知識・手法、縫製技術の基礎を学ぶ」、2年次は「自らのデザインによる自由制作課題に取り組むことで表現力や創造力を磨く」ために2年間の課程を設定している。</p> <p>FS 科は1年次で「ファッション提案の基礎となるファッションビジネス、コーディネート、プレゼンテーションを習得」、2年次で、高度なトータルファッションを学ぶ」ために2年間の課程を設定している。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか		授業は次のような3分野の編成である。 1). 「必修科目」 2). 「選択科目」 3). 「特別実習科目」 卒業後すぐに社会の即戦力として活躍できるようなカリキュラムを目標としている。 現代社会のパラダイムの変化やイノベーションにより、産業界のニーズ把握に努め、現代的再構成としてカリキュラム改編を検討している。	カリキュラムはフレームワークのため、目標達成のためにいかに有用性があるかという目的適合性で編成されるべきである。 将来の活躍分野である業界の希求する人材像を育成するため、カリキュラムの改編は定期的に検討を要請される。 1). 社会の変化 2). 業界のニーズの変化 3). 学生の質の変化等 以上のような点を鑑みてカリキュラムは見直されるべきである。	各学科の特徴を打ち出せるような科目設定をし、課程編成の明確な差別化を行う。 法的規制、資格制限要件の比較的少ない分野であるため、特色あるカリキュラムで社会的にアピールすべきである。 カリキュラム改編に向けての検討は随時、定期的に実施していく必要がある。	・ StudentHand book ・ 事業計画書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているかを <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		<p>各科とも、①「必修科目」（専門分野における基本的・応用的な科目）、②「選択科目」（各人の目標や興味にあわせ専門科目の学修と関連づけながら選択）、③「特別実習科目」（ファッションショー関連科目、検定試験対策など学生生活を充実させる科目群）の3つのカテゴリーで展開。</p> <p>Student Hand book にて、①担当者、②単位数、③授業方法（講義か実技か）、④履修区分（必修か選択か）、⑤学年配当、⑥学科配当、⑦開講時期、⑧評価方法、⑨授業のポイントをアナウンスメント。</p>	<p>ファッションの分野は何よりも時代の先見性と感受性が必要なため、その基本的なツールとなる授業科目および各学科の特徴となる専門的教育を配置すべきである。</p> <p>体系的かつ系統的に学修できるように各授業科目の教育方針や授業の狙いと内容など講義・演習・実習等の概要をアナウンスメントし、履修への動機づけをするべきである。</p>	<p>昨今の価格高騰に伴い、教材として導入している物品・テキストなどを改めて精査。一括購入することで学生に対して安価に小売、高価な辞書は貸出しなどとし、社会情勢に鑑みた工夫を行っている。</p> <p>来年度より、シラバスフォーマットをリニューアル、学内教員から試用・入力着手を開始。</p> <p>昨年度よりカリキュラム委員会を編成し、改編への検討を行なっている。学内で出た問題点と提案を取りまとめ、教育課程編成委員会に問う。</p>	<p>・StudentHand book</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		<p>期末に授業アンケートを実施している。学科ごとに教育課程編成委員会を設置し、年2回以上の委員会開催を行い「職業実践専門課程」の規定通りに運営している。</p>	<p>ファッション業界を盛り上げたいという熱意を持つ業界人が増えている。教育課程編成委員会への就任や授業など非常に協力的であるが、学校の授業として最適な授業と開講時期、日程の擦り合わせ等マッチングは難儀である。</p>	<p>各学科の授業構成や方針など、本校の教育への理解を深めるために日々の教育活動視察や成果発表の場へ参加を依頼。特別講義などで来校の機会を増やししながら、学生との懇親の時間を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織図</li> <li>・教育課程編成委員会議事録</li> </ul>
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか		<p>「就職すること、業界で継続して働いていくこと」自身のキャリアプランニングを考える授業として『ビジネスコミュニケーション』、社会人としての態度と振る舞い方を学ぶ『ビジネスマナー』、就職活動への心構えと指針のための『リクルートガイダンス1、2』などを開講している。昨年度から『マーケティング』では様々な職種の世界人を招き、キャリアと職種の理解に繋がるような講義を行なっている。</p>	<p>学校関係者評価委員より、社会人基礎力を補完する授業は一定出揃っているが、就職活動が遅滞する原因として、「職種を知らないのでは」という指摘を受けた。</p>	<p>社会人基礎力の必要性は本校学生の日々の姿勢からすると周知はできていると見てとれる。インターンや見学、特別講義など様々なアプローチで職種の多様さや実際の業務などに触れる機会を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Student Handbook</li> </ul>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		企業人事から卒業生の様子を聞く程度となっているが、活躍している社員が本校卒業生ということから求人票掲出に来るというケースもあった。	卒業生の社会的評価は教育の成果でもある。把握不足だが来校してくれる卒業生は増えた。同窓会が機能していないことも一因である。	近年の卒業生から足固めをして、卒業生コミュニティの構築の基盤を築く。学園祭1日目に卒業生懇親会を毎年開催していく。今年度は2回目となる。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか		前・後期終了時に全開講科目について授業アンケートを実施している。法人本部で一括して集計・分析を行い、同規定に基づき厳密な取り扱いと運用を行なっている。	非常勤講師に対しては授業アンケート結果を活かしきれていない状況である。	非常勤講師との個別ミーティングの実施やコロナ禍以降、長らく開催できていない講師会の議題としての活用などを検討していく。	・授業アンケート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>カリキュラムの構成要素である各学科目を体系的かつ系統的に学修できるよう、各授業科目の教育方針や授業のねらい、概要等を提示・解説することで、学生が授業の意義を主体的に把握しやすいものにする。</p> <p>キャリア教育とは、生徒一人ひとりが、カリキュラムの正課教育プログラムの中で、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」であるという立脚点のもと教育を実施していく。</p> <p>養成施設である以上、専修学校法および養成施設指導要項に基づいた厳密な運営とする。</p>	<p>教育目標、輩出すべき人材像を達成するためのフレームワークがカリキュラムであるため、その下位概念である個々の教科目は、それぞれの構成要素として目的適合性を持って配置されるべきである。①「必修科目」、②「選択科目」、③「特別実習科目」のカテゴリー区分を定期的に見直す必要がある。</p> <p>キャリア教育に対しては、教員の意識改革や教育に携わるものとしての資質の向上、効果的な科目の開講とその担い手の確保、教育効果の判定ツールの開発などが課題となるだろう。</p> <p>本年も「自己点検」「自己評価」の前提である授業アンケートを、専任・非常勤全授業に対して実施した。アンケートを詳細に分析して学園全体の授業改善策を検討するとともに、各教員に対しては個々の授業改善に活用していただきたいと考え授業参観等を実施し、次年度以降FD委員会の立ち上げを検討していく。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------



## 3-10 成績評価・単位認定等

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか		各教科担当により差異があるが、成績の評価は、①試験 ②課題作品及び提出物 ③受講姿勢等に基づいて評価を行う。	成績評価は授業の到達目標と基本的には連動するものではあるが、一人一人の持ち味や個性を尊重するような、出来るだけ多視点・多角的な評価を目指したいものである。	全人格的なものも評価されるべきであるため、多角的視野での評価を取り入れていくが、成績での反映が難しい場合には個別面談で伝えるなど、各人の優点を伝えることに留意する。	・StudentHand book
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか		様々なコンテストへのアプローチを推奨する「コンテストコーチング」という科目を配置している。また、卒業年次では3回の学習成果の発表の場を設けている。	学外のコンテストでは入賞以外は評価内容がわからない問題がある。	最善の成果は入選することとは必ずしも言えない。学内での作品発表では作品ごとに評価のフィードバックを行っている。評価方法の工夫、向上が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価は授業の到達目標との関連で評価されるべきではあるが、評価とは全人格的なものであるため筆記試験のみでなく、出来るだけ多角的な評価をすべきである。	卒業年次では3回の学習成果の発表の場を設け、評価し、フィードバックを行っている。

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 3-11 資格・免許取得の指導体制

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか		学校案内書とStudentHand bookに学科ごとの関連する資格と配当年次を明記している。	専門士の資格以外にもそれに付随する関連の資格は出来るだけ取得させることが望ましい。	「必修」と「選択」のカテゴリーの適合性と費用対効果をチェックする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> <li>・Student Handbook</li> </ul>
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか		業界で働く上で必須であると位置付けた資格に関しては、必修の受験とし、自身のスキルアップとしての受験は選択と、2つに区分けして開講している。	合格率が芳しくないものもある。検定試験に対するモチベーションが落ちてきている。	合格率の上昇のために全国平均を指針とする目標を設定する。学生に対しては資格取得の意義を具体的に示すことで、意欲に繋げる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職戦線の厳しい中、企業ニーズに沿った付加価値を身に付けた人材を育成する必要がある。本校を卒業した者は、「専門士」（服飾・家政専門過程）の称号が得られる他、①ファッションビジネス能力検定 ②スタイリングマップ検定 ③リテールマーケティング検定 ④ファッションビジネス能力検定 ⑤パターンメイキング技術検定 ⑥フォーマルスペシャリスト準 2 級⑦ファッション販売能力検定等の免許状（証）および資格を取得するための対策授業が運営されている。	就職試験において、企業では資格取得は努力の成果として評価の一つとなる。ファッション業界でプロとして働いていく上で、基礎的知識を得る機会として資格取得を推奨している。

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 3-12 教員・教員組織

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携をしているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか		<p>学校教育法の専修学校設置基準に基づく教員配置を行っている。</p> <p>各教員はそれぞれの分野に応じて、授業ための研修を行っている。</p> <p>非常勤を含む全開設授業について、前期・後期終了時に授業アンケートを実施。</p> <p>昨年度、長年勤務してきた常勤教員の退職にともない複数の新任教員を迎えた。年齢が幅広く分布した教員組織となった。</p>	<p>教員は自分が専攻する分野の知識や技術を体系的に伝達するが、本校の建学の精神にもとづいた教育理念の伝承者であることが求められる。</p> <p>授業アンケート等やキャリアに基づき、各教員の資質・適正を判定すべきである。</p> <p>教員は絶えず時代と環境の変化や変容を察知し、それを平常の授業に還元すべきである。</p>	<p>専任教員では担当できない科目については外部講師を起用する。</p> <p>引き続き教員の各階層で教員研修を行う必要がある。教員個々のスキルアップの方向性を見定めていけるように育成面接など上級者との面談の機会を活用していく。</p> <p>授業アンケートは法人本部総務部で一括して集計分析を行い、講師会等の資料として、また担当授業の反省材料としていく。</p>	<p>・アンケート集計結果</p> <p>・各種研修資料</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか		教授力を判定するための質問項目も含めた授業アンケートを毎期全授業終了時に実施している。 専門分野の技術・知識向上、就職指導の向上、教育手法の向上、3つのカテゴリーで研修を実施している。	専門分野の技術・知識向上のための研修を企業からの協力を得て実施していきたい。 研修の形態は(オンライン・オンデマンドなど)選べるようになったが、多岐に渡る業務の中で時間を捻出することは課題である。	協力企業の開拓に努める。 教務部の体制が大きく変わったところであり、組織の構築過程と言える。問題解決力の高いチームであることから、時間を要すれば解消もしくは改善が考えられる。	・アンケート集計結果
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか		前述のように組織構築の過程ではあるが、キャリア・スキルともに多様性のある教員構成となった。年度ごとに教務部の業務分掌を作りそれを元に業務を行っている。 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組みとして、教育課程編成委員会を組織している。	教育目標の設定、各授業の到達目標を明確にし、担当科目で何をするべきか各科目は整理されている。常勤、非常勤含め、各科目連動した上で、総合的な学びがディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標)となるべきである。	適宜、ミーティングを開催し、常勤・非常勤ともに学校目標・各授業の到達目標への理解を促し、浸透させていく。 年度末に講師会を開催することで、問題点を見出し、共有、改善に繋げる。	・教務部内規定 ・業務分掌表

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
多彩なキャリアを持つ教授陣であることは本校の強みであるが、教員としての指導力は不可欠であり、社会的承認を得る意味でも研修を行うべきである。各人の業務により優先順位は異なるが、就職活動への指導力は全員が求められる。知識・技術面以外の「ファッション産業が属している業界の背景と転換」「職業専門家としての正当な注意義務(due professional care)」についての研修も行うべきである。	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																
<p>就職希望者に対する就職率目標 100% → 結果 74.2%</p> <p>学生それぞれの長所、短所に合わせた就職支援を行い一層の充実をはかることを行った。業界で働いてきた新任教員を迎え、より幅広いアドバイスに繋がっているが就職率は伸び悩んだ。未決定者には卒業後も支援は継続して行っている。</p> <p>1年生については就職指導の強化として指導時期の前倒しにすることで、早期から就職に対する意識づけを図っている。企業情報の提供は随時行なっている。</p>	<p><u>資格取得について</u></p> <p>合格率が低かった科目は改善のための施策が功を奏し、昨年度より合格率は向上という結果であった。さらに成果が上がるように随時、授業運営は軌道修正を行いながら取り組んでいく。学生の資格取得の意義への理解も継続して促していく。</p> <p><u>就職について</u></p> <p>学生たちの気質は年々個人主義が強くなり、特に就職活動はそれぞれの活動先企業は異なるため、放課後などに個別指導で対応をしている。新たな就職先企業と情報ルートの開拓を行う。</p> <p>学校関係者委員より、学生の職種への知識不足が就職活動の遅滞要因の一つではないかという指摘を受け、職種を知るための特別講義を企画検討中である。</p>	<p>(1) 資格取得について</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%; text-align: center;">検 定</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定 3 級</td> <td style="text-align: center;">82.9%</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定 2 級</td> <td style="text-align: center;">25%</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング能力検定 3 級</td> <td style="text-align: center;">94.7%</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング検定 2 級</td> <td style="text-align: center;">15.3%</td> </tr> <tr> <td>スタイリングマップ検定 ジュニア</td> <td style="text-align: center;">78.3%</td> </tr> <tr> <td>スタイリングマップ検定 プレイヤー</td> <td style="text-align: center;">76.9%</td> </tr> <tr> <td>フォーマルスペシャリスト検定準 2 級</td> <td style="text-align: center;">93.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>就職率について            (表 4-1) 就職率            (表 4-2) キャリア支援プログラム</p>	検 定	合格率	ファッションビジネス能力検定 3 級	82.9%	ファッションビジネス能力検定 2 級	25%	パターンメイキング能力検定 3 級	94.7%	リテールマーケティング検定 2 級	15.3%	スタイリングマップ検定 ジュニア	78.3%	スタイリングマップ検定 プレイヤー	76.9%	フォーマルスペシャリスト検定準 2 級	93.3%
検 定	合格率																	
ファッションビジネス能力検定 3 級	82.9%																	
ファッションビジネス能力検定 2 級	25%																	
パターンメイキング能力検定 3 級	94.7%																	
リテールマーケティング検定 2 級	15.3%																	
スタイリングマップ検定 ジュニア	78.3%																	
スタイリングマップ検定 プレイヤー	76.9%																	
フォーマルスペシャリスト検定準 2 級	93.3%																	

(表 4-1) 就職率

学科	修業年限	令和3年度						令和4年度					
		卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率① (就職希望者に対して)	就職率② (卒業者に対して)	卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率① (就職希望者に対して)	就職率② (卒業者に対して)
			就職者	未決定					就職者	未決定			
アパレル プロフェッショナル科	2年	23	18	3	2	85.7%	78.2%	19	9	2	6	81.8%	47.3%
ファッション スタイリング科	2年	34	29	4	1	87.8%	85.2%	20	12	6	2	66.6%	60.0%
ファッション マスター科	1年	4	4	0	0	100.0%	100.0%	2	2	0	0	100.0%	100.0%
計		61	51	7	3	87.9%	83.6%	41	23	8	8	74.2%	56.1%

\* 就職希望者＝就職者＋未決定

\* 就職率①(%)＝就職者÷就職希望者

\* 就職率②(%)＝就職者÷卒業者

(表 4-2) キャリア支援プログラム

キャリア支援プログラム	
1年次6月	コミュニケーションの必要性の理解 挨拶と礼節の社会的重要性の認識
10月	就職試験対策講座開講：リクルートガイダンス1      ビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション開講
11月	学内企業説明会
1月	学内企業説明会    オンライン企業説明会
2月	内定報告会    2年生内定者による内定獲得事例の紹介
2月	オンライン合同企業説明会参加
2月	就職支援特別講義開講
3月	学内企業説明会
2年次4月	就職試験対策講座開講：リクルートガイダンス2 一般教養テスト、面接試験対策の実施 キャリアカウンセラーによる個別の面接指導開始 内定獲得まで随時、個別相談の実施
9月	進路未決定者面談    受入先企業の紹介
2月	内定報告会    後輩へ就職活動経験談の紹介

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 4-13 就職率

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか		① 就職面接 ① 就職ガイダンス ② 卒業生による講演 ③ 就職支援講座 ④ 求職票の登録 ⑤ 進路希望調査 ⑥ 採用試験対策講座 ⑦ 個人面接 などを実施。過去の卒業生の就職活動報告書を就職担当がファイリングを行い、学生が閲覧可能な状況に整備している。	専修学校は、出口である就職内定実績により教育の質の評価が行われることから、学園全体で力を入れるべき課題である。 オンラインでの説明会・面接は定着しているため、Wi-Fi環境が整っている、学園図書室で対応は行なっている(同時に2名まで、予約制)が、別棟であるため校内で対応ができる環境を整えたい。	学生に職業観を持たせ、就職活動への意欲を持続させていくかが課題。過去の就職活動の資料をデジタル媒体として閲覧可能にしていくことが理想であるが、システム構築と管理のための人員と労力が問題である。 Wi-Fi環境整備と個別相談やオンライン面接などで利用できるブース設営など、助成金対象として調査を行う。	・求人票ファイル ・採用試験受検報告書ファイル

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
専修学校は、出口の実績により内容が評価されるので学園全体で力を入れるべき課題である。	一年次の早い時期から就職ガイダンスを行い、担任、就職担当教員、ファッション業界に特化したキャリアカウンセラーを外部から採用し、生徒一人ひとりと向き合いながら、マンツーマンによる就職指導を徹底している。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------



## 4-14 資格・免許の取得率

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか		<p>正規のカリキュラムの設置科目を履修することで、資格試験にアプローチするための基礎学力が習得できるという構成が望ましい。常時、学校として資格取得のデータは把握しており、さらに有用な資格を取得し、業界で活躍している卒業生の情報を学校案内書で取り上げている。</p> <p>学習の意義と服飾の魅力を再確認できるような特別講義・ワークショップを開催している。</p>	<p>多様な資格を所持していることにより活躍の機会も拡大するため、専門士の資格に加えて関連する資格は出来るだけ取得させるべきである。</p> <p>担任と科目担当者は学生の資格取得情報を把握し、教務の責任者が取得状況と推移を集約、データ保管を確実にしておくべきである。</p>	<p>学生に関連資格取得の必要性を具体的な例をもって伝える。</p> <p>入力には教務部教務課が担当する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> <li>・Student Handbook</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>多様な資格を取得することにより、活躍の機会も拡大するため、専門士の資格に加え、関連する資格は出来るだけ取得させるべきである。</p>	<p>本校所定の教育課程（カリキュラム）の単位数を履習し、卒業した者は、「専門士」（服飾・家政専門課程の称号）が得られる。その他にも、①ファッションビジネス能力検定3級（両科1年次） ②パターンメイキング技術検定3級（AP科2年次） ③ファッションビジネス検定2級（FS科2年次）などの講座を設けている。</p> <p>さらに、①ファッション販売能力検定 ②販売士検定2級 ③フォーマルスペシャリスト ④教員認定などの選択受験資格として学生への受験を指導している。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 4-15 卒業生の社会的評価

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか		<p>業界で活躍中の卒業生の状況を学校案内書にて公示しているが、卒業生の社会的評価は一部の卒業生に留まっている。</p> <p>卒業生の状況把握の一環で学園祭初日に第一回卒業生懇親会を開催した。毎年継続していくことで卒業生ネットワークの礎とし、同窓会に発展させていくことを目標とする。</p> <p>FS 科のロールプレイング授業において、近年の卒業生 2 名に採点・指導に参加をもらった。</p>	<p>企業訪問等で卒業生の動向、社会的評価の把握が必要である。</p> <p>身近な目標となる実現可能な例が学生には必要である。</p>	<p>様々な年代の卒業生に授業に参入してもらい、学生が自身の将来を短期・中期・長期の視点で考えられるような施策を行う。卒業生が・在校生と交流できる場を作ることで愛校心を育む。卒業生、各世代でリアルなキャリア形成を披露してもらえるような科目を検討していく。</p> <p>SNS での情報発信は若手教員が担い、着実に閲覧数を増やしてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> <li>・武蔵野ファッションカレッジホームページ</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の活躍状況を学校案内書にて公示している。</p> <p>卒業生の社会的評価把握はまだ一部に留まっているが、卒業生へのアプローチは新たな展開を始めている。</p>	<p>在学時から卒業後の繋がり、交流と連携の機会を作っていく。卒業生と在校生、学校、教職員を統括する武蔵野コミュニティから同窓会への発展を目標とする。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>退学率目標 4%以内</p> <p>問題を抱えた学生やその兆しのある学生に対し、学校としての対応方針を決める「教育相談」を担当と校長で随時実施している。全教員で学生の様子に気を配り、声掛けなどを行なっている。情報共有を徹底し、担任だけに負担をかけない組織的な対応に努めている。</p> <p>一年生担任は全学生の保護者に、入学後早期に電話連絡を入れる施策を行なった。経過の段階であるが、保護者に安心感をもたらし、信頼を築くことにつながると期待できる。</p> <p>学費未納による退学を防ぐため、奨学金利用者への利用指導は継続して行なっている。</p> <p>高等教育の無償化もあり、「困窮」の感は減少したように思えるが、家計を支えざるを得ない難しい状況の学生も見受けられる。</p>	<p>様々な問題を抱えている学生が入学している現状である。問題学生への支援体制を整備していく。教員だけでなくスクールカウンセラーも交え、定期的な教育相談の実施を行っていく。根本的な解決はできなくとも、何らかの打開策に繋がるようにしていく。本校の学生が社会から孤立を感じるようなことは最も避けたい事態である。</p>	<p>(1) 退学率について 表は 5-1 へ</p>

(表 5-1) 退学率

科	令和3年度				令和4年度			
	期	退学者	学生数	退学率	期	退学者	学生数	退学率
アパレル プロフェッショナル科	2年生	3	26	11.5%	2年生	1	20	5.0%
	1年生	3	24	12.5%	1年生	4	18	22.2%
ファッション スタイリング科	2年生	0	34	0.0%	2年生	1	21	4.7%
	1年生	3	24	12.5%	1年生	2	18	11.1%
ファッション マスター科	1年生	0	4	0.0%	1年生	0	2	0.0%
計		9	112	8.0%		8	79	10.1%

\*退学率は、当該年度（4月1日～3月31日）の合計退学者数を当該年度5月1日の在籍者数で割ったものとします。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 5-16 就職等進路

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか		<p>1 年次後学期よりリクルートガイダンス 1 で就職指導を開講する。</p> <p>2 年次前期にもリクルートガイダンス 2 で引き続き就職指導を実施。</p> <p>就職活動に向け就職支援担当職員・クラス担任以外に、アパレル業界に特化した就職指導のできる外部講師を起用、面接や実技試験に向けて個別指導を行う。</p> <p>1 年次から、リクルートガイダンス、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーションなどの就職を意識したプログラムを必修科目に盛り込み、礼節や応対、立ち居振る舞い等を早期から習得させている。</p>	<p>売り手市場ではあるが、対面での接客が見直され始め、優秀な人材を業界は欲している。十分な対策を行なった上で採用試験に臨まないと内定獲得は依然、難しい状況である。アパレルの職種の一部しか理解が及んでいないことから、自分の適性とのマッチングができていない。</p>	<p>自己分析や就職活動先の提案・選択まで個別指導するという体制を強化していく。</p> <p>職種によっては適任と思われる担任以外の教員も積極的に協力し、全学生を全教員でバックアップしていく。</p> <p>卒業生とコミュニティを密にすることで新たな就職活動先企業の開拓にも繋げていく。</p> <p>内定獲得が難しい学生に対しては、学校側から本人の適性に合わせた企業・職種の紹介に力を入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Student Handbook</li> <li>• 学校案内書</li> <li>• 就職面談ファイル</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>内定率アップのため、1年生の早い時期から卒業生や企業の人事担当者を招き、現場の声を聞くことのできる学内企業説明会を開催し、学生の意欲の向上と持続をサポートし、個別対応でより多くの学生が内定を得られる体制を確立する。面接や実技試験へ向けて、リクルートガイダンス担当教員やクラス担任をはじめ、全教員のキャリアを活かして、就職活動のサポートや助言を行なっていく。</p>	<p>学生自らが真摯に自身のキャリア形成に向き合い、希望職種のみでなく幅広い選択ができるような心構えを持ち、教員は早い段階からの就職活動をバックアップし、内定獲得までサポートと助言を重ね、学生を支えていく。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------







中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>多様な事情を抱える学生に対して早期の対応を行い、退学者を未然に防止し、退学者数を抑制する必要がある。退学の理由として、①精神的な疾患 ②経済的困窮 ③目的意識欠如などが挙げられる。各学生の持つ背景は複雑な問題をときには宿している。改善につながらないこともあるが、スクールカウンセラーと教員が連携し、学生を支えていく。</p>	<p>学生の中には、学習意欲の減退を招くことが住々に見られる。自信を持てる場面を増やし自尊心を育てる工夫が必要である。「一人ひとりができるという成功体験を」学校生活の中で機会や手法の創出や手法の開発が必要。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 5-19 学生生活

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか		<p>学校独自の奨学金制度としては以下のものがある。①後藤学園同窓生推薦制度 ②同時入学者減免制度 ③リスタート支援制度 ④体験イベント参加者入学考査料免除制度</p> <p>公的支援制度については、日本学生支援機構奨学金制度、東京都育英会奨学金制度、学資ローンも利用可能である。経済的にやむを得ない理由があり、必要と認めた場合に限り届出によって学費の延納・分納に対応している。</p> <p>令和2年度4月から始まった給付型奨学金新制度の利用が出来る学校として承認を受ける。</p>	<p>公的支援制度については、担任と法人事務局総務部奨学金担当者が連携して手続きを進めていくが、個々の対応が求められるため負担は多大なものである。各担任の負担軽減と業務の効率化が課題である。</p> <p>各学生はそれぞれの事情と背景を抱えているが、勉学に取り組もうとする学生が学費の工面に苦勞することなく修学できるような社会環境づくりに努めなければならない。</p>	<p>スチューデントサポート課が中心となり、本校教務部内での業務のスリム化は行われている。さらなる負担軽減をするには学園全体での検討を要する。</p> <p>外部の財団等が開設している給付型の奨学金も紹介し、獲得のサポートをしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Student Handbook</li> <li>・ 学校案内書</li> <li>・ 学生募集要項</li> </ul>
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか		<p>健康診断は4月の新学期開始時に実施している。</p> <p>体調不良の際には保険室で休息することが可能であるが、専門職員の配置はしていない。一般的な常備薬は備えているが、回復しない場合や医師による手当が必要と判断した場合は校医を紹介、受診させている。</p>	<p>学生の心身の健康管理は学校にとって重要な事項である。体調不良や怪我について現状では応急処置しかできていない。保健室は設けているが、充分とはいえずさらなる整備は必要である。</p>	<p>保健室の整備と看護師・カウンセラーの常駐化は、本校・併設校の共通の課題であり、法人事務局をまじえ学園全体で検討事項として共有していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Student Handbook</li> </ul>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		健康診断記録は厳重に保管、就職活動の際など健康診断証明書として発行の申請ができる。	保管と運用は適切に行われている。特段の課題は持たない。	現状の適切な実施を継続して行う。	・ Student Handbook
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか		近年は寮を希望する学生が減少し、学園直営の寮は閉鎖の方向である。提携不動産会社より学生向けの物件を紹介している。入学相談室や教員が土地勘に乏しい学生の相談を受ける。	一人暮らしの学生が健全な生活を保てるように助言やサポートが必要である。	各担任が保護者と連携して、サポートを行っていく。	・ 学校案内書 ・ Student Handbook
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか		組織だったクラブ活動などは現在のところ行われていないが、今後、学生間で自主的な組織化の動向があれば学校としてサポートをしていく。	現状では特段の課題は持たない。	学生からの希望に応じて随時、サポートをしていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>従来の教育機会均等の権利保障のための奨学金に加えて、学園独自の減免制度を設置している。外部財団の事業による奨学金なども広く学生に紹介しサポートを行っていく。</p> <p>学生の居住に対する意識が大きく変化する中で、寮というニーズは減少している。初めて一人暮らしをする学生も多く、生活のリズムを軌道にのせられるかがハードルである。</p> <p>学生の健康管理は学校の重要な責務の一つである。担任を中心とした全教員で、日々の学生の心身の健康を注視し、勉学に打ち込める環境を整備する。</p>	<p>本校で取り扱っている奨学金制度は以下のようなものがある。</p> <p>①日本学生支援機構 ②東京都育英会奨学金 ③銀行教育ローン ④その他、学資ローン</p> <p>いずれも本学園の設置する学校の在校生に対し、学費の調達に苦勞することなく勉学に打ち込めるよう、生徒の就学及び育成に寄与する事を目的としたものである。令和2年度からは高等教育無償化制度（給付型奨学金）の利用もできる専門学校として認可を受けている。</p> <p>保健室の整備と看護師の常駐が今後の課題としてある。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 5-20 保護者との連携

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか		<p>学生に対する個人面談を年度初めや長期休暇の前後、必要に応じて随時、担任が実施している。</p> <p>連携して学生をサポートするために、新入生入学時には全保護者に担任が電話連絡を行なっている。</p> <p>随時、必要に応じて、担任は保護者とコンタクトを取っている。</p>	<p>学生のサポートに関して保護者と連携し、協力体制を築いていくことは非常に有効である。学校への理解と信頼を構築することが肝要である。</p>	<p>学校関係者評価委員より、オープンスクールの提案を受けた。より学校を身近に感じ、本校への理解を深めてもらえるように、授業参観日を設けることを前向きに検討していく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>保護者との連携し、協力体制を築いていくことは、一つの活路である。学校への信頼と理解を得ることがその礎石となる。</p>	<p>出席状況および成績に問題のある生徒に対しては担任が頻繁に保護者に電話連絡を行っている。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 5-21 卒業生・社会人

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか		<p>シヨップやショー、学園祭の招待等で卒業生と交流を保ってきた。昨年度より学園祭1日目に卒業生懇親会を開催することした。「また来年の今日」を合言葉に盛り上げていく。</p>	<p>同窓会は活動が鈍かったことから、卒業生とのネットワークは脆弱である。卒業後もスキルアップの機会を求めてもらえることは母校として誇り高いことであり、期待に応えるべきである。</p>	<p>近年の卒業生からネットワークの構築をし、武蔵野コミュニティに発展させていく第一歩は踏み出した。卒業生が受講できる講座として、ニーズの調査・分析をもとに開講の検討をしていく。</p>	<p>・学校案内書</p>
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか		<p>開発は携わっていないが、研修会等への参加・協力は積極的に行なっている。</p>	<p>教職員の入れ替わりとともに体制構築が優先となり、学会・研究活動に着手できていない。</p>	<p>組織として構築過程であるが、枠組みが整ってくれば、研究にも取り組めるであろう。</p>	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか		<p>リスタートの減免制度を設けるなど、社会人を積極的に受け入れる基盤はあるが、ニーズはそれほど高くない。しかし生涯学習の重要性が認識されつつある昨今において、地域貢献の観点からも公開講座等の開催も視野に入れる。</p>	<p>少子高齢化社会の進展、生涯学習への注目から公開講座の検討をするべき時期である。図書館等学校施設の開放も積極的に行ない地域と調和・共生する学園であるべきである。</p>	<p>池袋周辺は大型商業施設が運営するカルチャーセンターなどがあり、様々な講座を末に提供している。学校として地域から期待されるものを見極めるべきである。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の活躍状況は学校として絶えず把握しておくべきであるし、卒業生が働きながらスキルアップすることを学校としてサポートすべきである。在校生のみならず卒業生にも、母校として学びを提供できる場所を目標とする。何を還元していけるかというニーズの見極めと教員自らが学び、研究者である意欲と技術の保持をしていく。</p>	<p>武蔵野ネットワークは、①卒業生 ②在校生 ③学校 ④教員 ⑤学園関係者を想定し、近年の卒業生を礎に拡充していくことを目指す。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>安心・安全な教育環境の整備を目指す。校舎の老朽化による破損箇所が多く出ているが、担当部署がスピーディーに対応し環境整備に努めている。老朽化により根本的な解決にならない箇所も出ているが、教職員は整理整頓に留意し、愛着を持って校舎を保守・管理する。</p> <p>課題となっていた「工業用ボディ」「CADバージョンアップ」「CG用PC」の導入はこの数年間で補助金等を利用し、完備することができた。</p> <p>各教室にプロジェクターの設置を検討していたが、教室の利用計画を再考したところ移動可能なモニターの方が適当と判断し、昨年末に導入となった。</p>	<p>当面の設備はひと段落整ったところである。PCは消耗品であり、工業用ボディやミシン等の他の備品も経年とともに入れ替えは避けることができない。この数年の設備・備品の入れ替えに苦心したことは、購入に関する計画がなされていなかったことに起因する。入学希望者が増加することも視野に入れ、設備・備品の更新について中長期的な視点で策を講ずる必要がある。</p>	<p>現在耐震工事・校舎修繕計画を法人事務局と検討中である。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未



## 6-22 施設・設備等

評価：3

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか		<p>工場用マシンをはじめとした専門的な縫製実習設備のほか、アパレル実務に欠かせないCADやCGアプリケーションを搭載したPC設備を揃え、適切に保守・管理している。潤沢とは言えないが授業に支障はない。図書室は専任の司書と教務部が協力して専門分野に特化した選書を行なっている。</p> <p>昨年度、エントランスホールに作業台・マシン・アイロンを設置し、アトリエとして開設した。テーブルや椅子もあり、学生の休憩・食事スペースも兼ね、教員と学生の交流の場に生まれ変わった。卒業生にも開放していく。</p> <p>校舎自体の老朽化は否めないが、修繕と改修は随時行われている。</p>	<p>適切な設備を教育に供するために、効率よく定期的なメンテナンスが必要である。</p> <p>CADやCGアプリケーションは専門性が高いために高額であり、負担は大きい。</p> <p>縫製実習の際の作業環境の改善案として、作業台の配備が望ましい。</p>	<p>教育充実のためにより良い環境整備に努める。</p> <p>老朽化はしているが、清潔で整理がゆき届いた環境を保つように心がけている。</p> <p>PCは授業のローテーションを組むことで台数は制限が可能である。入学者数が増加してくれば解消される課題である。</p> <p>教室は授業により、様々な使い方がなされている。移動ができるような作業台など、導入計画には熟考を要する。</p> <p>より高い教育効果の実現のために改善計画と財源の確保が必要である。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校が必要とする施設・設備は設置するだけでなく、その安全性を保障し、教職員と生徒が安心して使用できるよう保守・管理を伴う。</p>	<p>技術を習得し、スキルアップができる機材・設備環境の整備に力を入れる。施設・設備において耐用年数を超え、老朽化している部分は優先順位をつけて修繕を進めてゆき、在校生が安心・安全に学園生活が過ごせるように保守・管理を行う。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 6-23 学外実習、インターンシップ等

評定 3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか		<b>【学外実習】</b> 1). 実社会に触れることで社会人としての意識や自覚を認識するためのインターンシップ ① 校内での事前指導 ② 校外での実地研修 ③ 研修報告書の提出 ④ 報告会の実施 ⑤ 単位の認定(研修先からの評価を含) 2). 異文化に触れる海外研修(希望者のみ)  <b>【学校行事】</b> 1). 体育祭 2). incubate collection 3). 学園祭 体育祭および学園祭は各クラスからの委員によって実行委員会を結成し、運営を行なっている。incubate collection は各クラスからの運営スタッフで組織し、業務を全学生で分掌する。	インターンシップでは現場での仕事を体験することで即戦力となる知識や技術、感性を実践的に吸収することができる。就職活動の観点からも学生には率先して参加をするように促すべきである。 各学科の教育目標・人材像、各学生のキャリアプランにフィットする多様な職種の研修先の確保が急がれる。 学生の委員会主導における学校行事の運営は2年目である。昨年度の反省点を踏まえ改善が行われる。大きな課題はなく、教員のバックアップのもとで適切な運営が期待できる。	研修先の拡充のためには学外との交流を作り学校の認知度を上げていかなければならない。卒業生や学校関係者委員や教育課程編成委員に情報を頂きながら、積極的に学外へアピールを行う。 インターンの期間は数日から単発のショーフィッターなど、様々である。学生には学外での学びとなり、学校にとっては企業との繋がりとなりえる。人数調整や派遣連絡などは手数を要するが、教育の一環として参画していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>両学科2年次配当の選択科目として「インターンシップ」を開講している。学習していることが実社会でどの様に活用され展開しているかを知ることにより、今後の勉強への意識・意欲の向上に繋げる。職業への適性、将来の計画を考える機会とし、社会人としての自覚や職業観の育成を目的とする。</p>	<p>1). 実社会に触れ社会人としての意識や自覚を高めるための実地研修「インターンシップ」を実施している。 ①事前指導 ②実地研修 ③研修報告書作成 ④研修報告会 ⑤単位認定</p> <p>2). 異文化に触れる海外研修(希望者参加) 今年度より再開させるべく企画進行中。パリコレクション、現地のファッションの展覧会の見学等、学校ならではの研修構成である。 特にインターンシップについては、①校内での事前確認および、②校外での現場実習、③報告会を実施して選択科目の単位認定。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 6-24 防災・安全管理

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか		<p>法人事務局総務部総務課の事務分掌として、「火災予防及び災害防止に関すること」(第3条27項)と規定している。</p> <p>備品の故障状況は各実習担当者が随時、把握をしている。必要があれば予備品から代替し、年度末に一斉点検・修理を行っている。日常的なメンテナンスは極力教員が行い、予算の節減にも努めている。</p> <p>入学時に「学生生徒災害傷害保険(専修・各種学校災害保険)」に加入させている。非常時の際の防災セットを学生ごとに備えている。</p> <p>4月のオリエンテーション期間に有事の際の動線である避難経路等の理解として、東京都が指定する避難場所へ避難訓練を実施している。</p>	<p>教職員や学生に対して、安心・安全な環境・施設を整備するのは学校の責務である。</p> <p>授業の際に使用する設備のリスクについては学生に周知をする。学校と教員は学生の安全を担保し、学生の事故を未然に防止できるように備えるべきである。</p> <p>起こりうる様々な事象に対応できるよう、指揮系統を整備し、日頃から防災・減災への備えを講じておくべきである。</p>	<p>危機管理マニュアルの策定や、災害に備えた日常の訓練を行う。</p> <p>教員は定期的に消防署での消防訓練に参加し、非常時における行動演習を行う。</p> <p>校内は整理・整頓を心掛け、非常時の避難経路を妨げない。</p> <p>緊急放送機器・スピーカーの新調を検討する。</p>	<p>・学校法人後藤学園規程集</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		<p>昨年度、玄関ドアガラスを破壊される被害にあったことから、校舎周囲に防犯カメラを設置した。</p> <p>4月のオリエンテーション期間に有事の際の動線である避難経路等の理解として、東京都が指定する避難場所へ避難訓練を実施している。</p> <p>学園において、教職員を対象とした防災マニュアルが策定されている。学園の自衛消防隊を組織し、通報・初期消火・避難誘導等の任務を教職員が分掌する。</p>	<p>防犯カメラの設置は一定の防犯効果はあるが、盤石ではない。繁華街も近いから、学生と教職員の安全を確実に守るためには、今後何らかの対応をしていくことを考えておかななくてはならない。</p> <p>本校の専門性から実習の多い授業構成であるが、現状は助手を配置している授業は少ない。学習効果としても危機管理としても有効であるため学生数の増加に伴い、助手の配置を増やしていくべきである。</p>	<p>来校者が必ず目に留まるように、一階エントランス付近の改装も一案。警備会社への委託もしくは生体認証による解錠等の施設・設備の更新も選択肢である。財源の確保を検討する。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業の際に使用する設備のリスクについては学生に周知を徹底する。授業担当者だけでなく全教員で学生を注視し、事故を未然に防止すべきである。安全性を担保するための必要事項と設備を検証し、財源の確保を検討していく。</p>	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>令和5年度入学者数目標 90人 → 結果 63人 「一人ひとり」をキーワードに。昨年からのガイダンス等への講師派遣は教員が全て行なってきた。授業を行いながら、ガイダンスのほぼ全てに少ない教員数で対応することは非常に負担が大きいものである。SNSによる発信を若い教員が担い、学校の魅力を伝えるツールとして着実に閲覧数を伸ばしている。体験入学の講座も昨年度、リニューアルしたことでより楽しめる実習を取り揃えた。教員の負担は多大であったが、体験入学参加者数は目標数値を大きく上回っている。</p>	<p>効率化を進めることと負担軽減が改善点であるが、人員を増やすことで根本的な業務の分量を分散・軽減するべきである。入学希望者数がある程度の定数まで達してくれば、新たな施策を望めるであろう。</p>	<p>組織構築とともに募集活動においてもできる最大限のことを行ってきた。より良くという意識・意欲は本校教員の優れた特徴である。このチーム力は募集活動においても、普段の授業においても成果が期待できるものである。</p>

(表 7-1) 入学定員及び学生数 (令和5年5月1日現在)

※ 入学者数は5月1日現在の数値を記載。

※ 前年度OC参加者は入学前年度(願書提出年度)の4月1日～9月30日のOC(オープンキャンパス等)の参加者数を記載。

		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
アパレル プロフェッショナル科(2年 課程)	入学定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	40	40
	入学者数	13	8	16	18	16	12	27	29	29	24	17	29
	男	1	3	3	2	0	4	2	2	8	5	1	4
	女	12	5	13	16	16	8	25	27	21	19	16	25
	充足率	43.3%	26.7%	53.3%	60.0%	53.3%	40.0%	90.0%	96.7%	96.7%	80.0%	42.5%	72.5%
ファッション スタイリング科 (2年課程)	入学定員	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	50	50
	入学者数	30	41	45	44	48	44	36	39	40	24	18	28
	男	7	11	11	12	43	7	6	9	6	8	7	9
	女	23	30	34	32	5	37	30	30	34	16	11	19
	充足率	50.0%	68.3%	75.0%	73.3%	80.0%	73.3%	60.0%	65.0%	66.7%	40.0%	36.0%	56.0%
ファッション マスター科 (1年課程)	入学定員	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	入学者数	2	4	6	0	5	3	3	2	1	4	2	6
	男	0	2	1	0	1	0	0	1	0	2	1	2
	女	2	2	5	0	4	3	3	1	1	2	1	4
	充足率	20.0%	40.0%	60.0%	0.0%	50.0%	30.0%	30.0%	20.0%	10.0%	40.0%	20.0%	60.0%
学校計	入学定員	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	入学者数	45	53	67	62	69	59	66	70	70	52	37	63
	男	8	16	15	14	6	11	8	12	14	15	9	15
	女	37	37	52	48	63	48	58	58	56	37	28	48
	充足率	45.0%	53.0%	67.0%	62.0%	69.0%	59.0%	66.0%	70.0%	70.0%	52.0%	37.0%	63.0%
	前年度のOC参加者	197	205	255	290	288	255	286	286	217	138	152	210
	出願者数	47	56	69	63	71	62	68	72	73	53	37	63
	OC歩留率	23.9%	27.3%	27.1%	21.7%	24.7%	24.3%	23.8%	25.2%	33.6%	38.4%	24.3%	30.0%

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未



## 7-25 学生募集活動

評定：3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか		<p>高等学校が開催する「進路説明会」に教員を派遣することで本校の教育活動について具体的に伝えることができている。「出張模擬授業」も積極的に参画し、高校教員にも本校の特徴を理解してもらうきっかけとなっている。</p> <p>「学校案内書」は生徒のみならず保護者、教員も閲覧することを考慮した内容にまとめている。</p>	<p>本校の認知度を上げていくことで、本校が目指す教育に対する理解も浸透し、評価もされるであろう。学校としてのブランディングで存在感と価値を引き上げていくことが課題である。</p>	<p>高等学校教員対象の講習の開催等、専門学校として貢献できることの検討を行う。主に家庭科の教員が対象となってくるが、併設校と協力をしていけば、選べる講座なども実現可能であろう。</p>	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか		<p>入学願書の受付は専修学校協会の取り決めに従って開始している。入学相談は大きく分けて、ファッションの専門性についての部分は教員が担い、出願等手続きについては広報部を中心としている。</p> <p>学校案内書には、本校の特徴的な教育活動に関するページを設けている。ディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシーも掲載し、本校が輩出しようとしている人材像を明確にしている。</p>	<p>専修学校協会の取り決めを遵守すべきである。学校の内容は志望者等の理解しやすいものとするべきである。</p> <p>志望者が正しく進路選択をできるように丁寧かつ誠実な対応を行う。</p> <p>入学者確保は設備・施設の整備などにおいて、入学者にも利点をもたらすため、定員充足が望ましい。</p>	<p>入学者と体験入学参加者に対するアンケートを、より詳細に分析することで分かりやすい学校案内書の作成に反映させていく。</p> <p>他校との差別化を明確にするために、本校の強みと魅力をさらに印象付けていく。</p>	<p>・学校案内書</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>体験入学の実施回数は土曜日もしくは日曜日を中心に、参加者とその保護者が参加しやすいように年間40回ほど開催している。</p> <p>実施内容の工夫としては、必ず参加者と教員が個別で相談できる機会を設け、本校の詳細な説明や学校選びのポイントを丁寧に解説している。</p> <p>書類選考となるが、体験入学における個別面談の内容を記録し、選考の材料としている。</p> <p>出願方法は総合型選抜や各種推薦選抜、一般・キャリア選抜等、を用意している。総合型選抜では面接を行うが、遠方の生徒の場合にはオンラインでの実施に対応をしている。</p>	<p>体験入学参加者のうち出願まで結びつくのは約3割である。定員充足率をあげるには、体験入学参加者の増員と歩留を伸ばすことが必要である。</p>	<p>実習メニューやキャッチコピーの工夫、開催告知のタイミングと視覚的な魅力が重要である。ダイレクトに発信できるSNSを運用し、効果的な告知を行う。</p> <p>学内の広報戦略会議によって、定期的に広報活動の活性化が議論されている。今後様々な施策の提案がなされる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集においては専修学校協会の取り決めに遵守し、入学希望者募集のツールである学校案内書は、学校の教育内容を対象者および保護者にとって理解し易く誠実なものとするべきである。本校独自の強みと魅力が、他校との差別化の中核を成す。また、定員充足の方針のもと、充足率を満たせるような募集活動の綿密な企画が求められる。</p>	<p>教育成果の集大成が就職内定の質と数値にあらわれる。その質と数値は進学先を選ぶバロメーターの一つとなり得る。入学対象者への誠実且つ親身な対応と在校生への手厚い就職指導、入口から出口まで真摯に取り組むべきである。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 7-26 入学選考

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか		学生募集要項において入学選考基準・選考方法は明確に規定され、遂行されている。	入学相談室担当者と連携し、円滑な選考過程が行われている。現在、特段の課題は持たない。	現状の適切な運営を継続して行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> <li>・学生募集要項</li> </ul>
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか		<p>学園の情報システムは整備されており、各学校・学科毎の各種データは適切に蓄積し、管理されている。</p> <p>入学者に限らず、本校学生の傾向は常に把握し、授業の方法と展開、運営に随時反映を行なっている。</p> <p>体験入学参加者の推移及び出願状況を注視し、予測入学者数を元に整合性のある予算計画と教材費の立案がなされている。</p>	<p>情報システムへのデータ入力は習慣化が定着しているため、随時適切に更新されている。</p> <p>現在、特段の課題は持たないが、システム自体のリニューアルの検討時期ではある。</p> <p>体験入学参加者数の増加から、来年度入学者数は予測が難しい。</p>	<p>体験入学参加者数が近年から飛び抜けて増加してきていることから、例年の予測範囲を逸脱しかねないが、学校・学生の双方にとって好転につながることでゆえに問題はない。</p> <p>学生数増加とともに情報システムのリニューアルを再考できるであろう。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学希望者と保護者においては、本校を十分に理解し納得をした上で出願をしてもらうべきである。そのためにはわかりやすく正確に記載された学校案内書を導入に、体験入学の参加等で実際に本校の雰囲気や特徴をよく知ってもらうことが重要である。複数の出願方法により多様なニーズに応え、選考は分かりやすい基準で行う。</p> <p>学生募集におけるマーケティング戦略についての情報は常に更新・把握し、健全な財務計画の策定にあたる。</p>	<p>併設校の代表と法人事務局から成る、広報戦略会議において、マーケティング戦略が議論されている。定期的に行われ各種イベントなど立案や SNS の運用状況の分析等が行われている。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 7-27 学納金

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか		<p>近隣の同規模である専修学校の学納金・教材費は教務課が調査を行っている。その報告を参考に学校内で検討を行い、本校の独自性を加味し、理事会・評議員会の承認を受けて決定される。</p> <p>学納金と教材費内訳は学生募集要項に掲載・提示している。</p>	<p>学納金は学校の運営の根幹である。水準を把握し、教育内容に応じた適切な金額を明確に提示せねばならない。保護者が学費納入計画を立てやすくするように努めなければならない。昨今の物品価格の上昇をどの程度反映させなければならないかが課題である。</p>	<p>昨年度は長らく据え置かれていた教材費を精査し、調整を行った。</p> <p>軒並み上昇を続けている物品価格に鑑み、来年度の学納金を僅かに上げたが、学生の現状を考慮し微増で踏み止まっている。今後の推移を注視していく。教育の適正な対価として学生に提示していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内書</li> <li>・学生募集要項</li> </ul>
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか		<p>学則に則り、適正に処理している。学生募集要項にも記載・明示されている。</p>	<p>文部科学省の通知(「大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の入学辞退者に対する授業料等の取り扱いについて」：平成18年12月28日)に準拠して適正に運営され、特段の課題は持たない。</p>	<p>今後も同通知を遵守し、学則に則った適切な処理を継続する。</p>	<p>文部科学省「大学、短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の入学辞退者に対する授業料等の取り扱いについて」(通知)(平成18年12月28日18文科高第536号)</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学校運営の根幹を成す学納金を来年度は僅かに増額する。昨今の物品価格の上昇幅からすると微増で踏み止まっている。さらなる学費・教材費の増額を避けられるように、創意工夫と努力で現状の金額を護持することが望ましい。</p>	

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>原資である学納金に繋がる入学者増加への様々な施策は確実に成果をあげようとしている。定員を満たすことを維持していれば財務状況は改善へ転じるであろう。予算の申請と執行は精査して慎重に行われている。収入となる学納金はできる限り護持をしていくが、令和 6 年度より一部増額となる。これ以上の学費値上げを避けるべく、学生数の増員で補完することを目標とする。今後も支出を抑制し、より健全な財務状況となるように努めていく。</p> <p>学費滞納、未納は一定数いるが、奨学金新制度の利用もあり大きく問題となるケースは減少傾向と見受けられる。外部監事 2 名による監査が行われており、幹事は私学振興助成法に基づく公認会計士監査における会計監査人とも連携し、業務監査や財政の状況、理事の業務執行の状況の監査を行っている。また、理事会・評議員会にも出席し、学校法人の業務や財産の状況について意見を述べている。</p> <p>財務状況の公開は法人の計算書類を各校のホームページ上で公開している。私立大学等経常費補助金の交付対象法人として、また職業実践専門課程の認定校として、適切に運用していると言える。</p>	<p>支出は今までと同じく抑制を心掛けていくが、必要なところに充当をすることも入学者の増員に関連する。優先順位を精査し、有効で適切な予算運用を行う。</p>	<p>学校法人として、5 カ年計画の立案、予算委員会を設置して財務基盤の安定化をはかっている。</p> <p>令和 2 年度より学園全体の経営発展を検討する「NEXTEP 委員会」を設置し、下部組織に 4 つのプロジェクトチームを配置する。様々な施策アイデアの源泉として議論を続けている。</p>

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 8-28 財務基盤

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか		<p>応募者数・入学者数及び定員充足率については、(表 7-1) 入学定員及び学生数を参照。</p> <p>学園として 5 年計画の立案、予算委員会の設置で財務基盤安定をはかっている。</p> <p>設備について、投資というレベルではなく、修繕と改修、老朽化に伴う入れ替えという現状である。</p>	<p>学校法人の財政にとって収支の均衡は最も重要な要件である。学生数減少で収入と支出のバランスは幾分欠いている状況であるが、支出の抑制で凌いでいる。</p>	<p>入学者数の定員充足は財務状況改善に直結するが、入学者数増員に向けた施策は成果が見え始めている。軌道に乗れば設備への投資も実現できるであろう。</p>	(表 7-1) 入学定員及び学生数
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近 3 年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近 3 年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか		<p>法人事務局財務部により、数値の経年度の推移データが作成されている。定期的に監査を行っており適切に運用と管理が行われている。</p>	<p>定期的な監査により、適切な運用と管理がなされている。特段の課題は持たない。</p>	<p>財務諸表の各種比率を私学事業団の資料と比較し、財務分析的な本校の位置付けを確認するべきである。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		<p>最近3年間の収支状況（事業活動収支・資金収支）による財務分析を行う。</p> <p>最近3年間の財産目録・貸借対照表の数值による財務分析を行う。</p> <p>最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定する。</p> <p>キャッシュフローの状況を示すデータがあり、コスト管理も適切に行われている。</p>	<p>学生数減少に伴い、収支のバランスを崩しているが入学者数の回復は見込めるため、この数年で均衡を取り戻し、保持をしていく。</p>	<p>主要な財務数値に関する財務分析を行い、日本私立学校振興・共済事業団が発行する「今日の私学財政」の数值を元に、他校との比較・検討を行っている。</p> <p>また、決算数値の推移を示した図表を評議員・理事会に提出し、キャッシュフローや収支の状況についての説明を行っている。支出超過の状況を打開すべく、令和3年度にNEXTEP 委員会を組織し、4つのプロジェクトチームを配置した。</p> <p>広報活動の活性化のために広報戦略会議も招集されている。積極的施策案と対策・戦略の議論がなされる。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>18歳人口の減少、経済情勢の悪化、進学率の上限の限界等、専修学校を取り巻く環境諸条件はますます厳しいものとなりつつある。財政を健全化させてゆくためには、収入に見合った人件費や諸経費などの経常的支出と、将来を見据えた設備投資のバランスを考慮に入れて執行すべきである。</p>	<p>学園全体では入学者数の減少による支出超過が続いており、経営改善に取り組んでいく。</p>



## 8-29 予算・収支計画

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか		毎年 11 月の理事会までに予算編成方針を策定し、各部署からの予算申請結果を元に予算委員会で検討し、予算作成を行っている。予算委員会・常務会の審議を経た予算案を理事会に付議し、予算決定となる。	予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図り、その編成の過程および決定の過程は明確にされている。特段の課題は持たない。	以前は各部署からの予算申請は 12 月～1月であり、3月に議決する事業計画と予算が乖離することがあった。令和 2 年度からは中期計画を策定し、年度ごとの取り組みを明示したうえで必要な予算を申請する手順となった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校法人後藤学園令和 5 年度予算編成方針</li> <li>学校法人後藤学園中期計画</li> </ul>
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか		各部署において予算申請時に過去の予算執行額を考慮し、乖離が生じないようにしている。予算と決算に乖離が見られるものは適正化される。予算管理システム上で超過しないように設定されており、予算が不足する場合は、予算および予備費の流用で対処する。	予算システムの構築により円滑に運営され特段の問題はない。	予算システムの効率的な運用のために項目の整理を来年度に向けて行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校法人後藤学園経理規定</li> <li>学校法人後藤学園予算管理規定</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園全体としては支出超過の状況が続いている。入学者目標数の達成に向けて、募集活動に注力する。また、継続して支出内容を見直し、教育の質は下げずに支出の節減をする方法を模索していく。	<p>予算編成方針は理事会の承認を受け、各部署が予算申請を行う前に策定され、全教職員に通知される。</p> <p>当初予算で想定していなかった支出については予備費を流用しており、補正予算は組んでいない。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 8-30 監査

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか		<p>外部監事 2 人による監査が行われており、監事は私学振興助成法に基づく公認会計士監査における会計監査人とも連携し、業務監査や財産の状況の監査を行っている。また、理事会・評議員会にも出席し、学校法人の業務や財産の状況について意見を述べている。</p> <p>監事は寄付行為の規定に基づき、学校法人の業務および財産の状況について適宜監査を行っている。また、理事会に出席し意見を述べている。</p>	私立学校法及び寄附行為に基づく監査は適切に実施されている。特段の課題は持たない。	今後も各法令に準拠し、適切に運営を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づく監査は適切に実施されている。	併設校として短期大学を有しており、私立大学等経常費補助金の交付を受けているため、毎年、私学振興助成法に基づく公認会計士による監査を受けている。他の専修学校と比べ、より厳しい視点から監査を受けていると思われる。

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 8-31 財務情報の公開

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか		私立大学等経常費補助金の交付対象法人として、また職業実践専門課程の認定校として、法人の計算書類を各校のホームページ上で公開している。	適切に運用しているといえる。特段の課題となるものは持っていないが、財務情報の内容について、学校法人会計と企業会計になじみの薄い教職員に対し、説明する機会を要する。	財務情報の公表について、分かりやすく加工することが望まれる。学校法人会計と企業会計との違い等、財政改善にあたり学園全体での情報共有が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報の公開についてはホームページにて、学園の財務情報ならびに監事監査報告書を公開している。	資金収支計算書や事業活動収支計算書について、ポイントをまとめた説明文を記載し、公開している。また、経常収支差額のような重要な数値を色付けし、分かりやすく公開している。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1).関連法令、設置基準等の遵守 専修学校設置基準等の関係法令や学内規定を遵守し、学校運営は健全に行われている。 学園において、ハラスメント防止委員会を設置している。委員は法人事務局と各学校の教職員により構成され、ハラスメント防止のための規定を策定、掲示物を作成し、学生に対して周知をしている。 また、教職員の健康確保のために、平成27年度に労働安全衛生委員会を設置、平成28年度にストレスチェック制度実施規定が施行された。</p> <p>2).個人情報の保護 学園の取り組みとして「学校法人後藤学園個人情報保護規定」を定めている。学生に対しては入学時に「個人情報の取り扱いについて」の書面を配布し、周知・確認を行っている。</p> <p>3).学校評価 自己点検・自己評価については『学校教育法施行規則』に於いて義務化されている。本校に於いても学則にて規定し、誠実に遂行する。 平成 21年度、職業実践専門課程の申請に伴い、学校関係者評価委員会を設置した。学校の専門分野における業界関係者、高等学校の校長もしくは任命するもの、卒業生より委員を選任し、自己点検・自己評価をもとに学校関係者評価を行っている。 自己点検・自己評価報告書及び学校関係者評価報告書はホームページにて公開されている。 平成28年度に文科省委託事業「分野別第三者評価」を試行としてではあるが、機会を得て受審をした。産業界、同分野校から厳しい視点での評価であったが、「職業実践専門課程として適切な運営がなされている」と評価を受けた。現在はその維持に努めている。</p>	<p>法令の遵守に関しては特に課題は持たない。 第三者評価は努力義務という段階であるが、受審は教育の質保証の維持にとって、自己点検と確認の機会となる。今後の評価機構の第三者評価受審を検討する。各種委員会に関連する教務事務の業務が増えており負担は小さくない。それらの業務を担う人員の育成に取り組んでいく。</p>	<p>個人情報保護規定については『学校法人個人情報保護規定』が定められている。学園として「学校法人後藤学園個人情報保護規定」と合わせて運用し、教職員は共通認識を持って遵守し、取り組んでいる。 自己点検及び自己評価については、「武蔵野ファッションカレッジ学則」に於いて次のように規定されている。 [第4条] 本校はその教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため本校における教育活動等の状況について自己点検及び評価を行うものとする 学校関係者評価委員及び教育課程編成委員会の学外委員は要件を満たした選任が行われ、適切に配置されている。学校関係者評価の結果を踏まえ学校運営の改善を図り、教育課程編成委員会に於いて定期的にカリキュラムの検討・改善を行っていく。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

9-32 (1/1)

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか		専修学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準等は、規則を遵守し適正な運営が行われている。学校運営に必要な規則・規定等も整備をされている。 セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のためハラスメント防止委員会を組織し、対応マニュアルを策定し、適切に運用している。掲示物・印刷物等で学生に周知を行っている。	体制の移行に伴い、教務事務業務の引き継ぎに不十分な部分があり、一部遅滞が見られた。	多岐に渡る諸届等、関連の教務事務業務の進行状況を管理し、迅速かつ確実に遂行していく。段階的な分掌化を進める。	・学校法人後藤学園規程集

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係の各種の法令及び専修学校設置基準等に基づき、適正な学校運営が行われており、学校運営に必要な規則・規定も整備をされている。それらの改正に伴う変更事項については、迅速且つ確実に対応をしていく。	法令及び制度の改などに迅速に対応できるように、組織の体制を整えとともに関係する事務業務の分掌化と人員の育成を推進していく。

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 9-33 個人情報保護

評定：4

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか		「学校法人後藤学園個人情報規程」に基づき個人情報保護計画を策定し実施するとともに、学園職員はこの規定に従って個人情報を保護している卒業生の情報管理は学内情報システムに於いて一元的に行われている。学園に個人情報管理責任者を選任し、個人情報の保護に努めるとともに定期的な研修を実施している。	個人情報保護の重要性を教職員全体で認識し、その解釈の共通理解を図っていくこととその継続が重要である。	個人情報保護のために定期的な研修を行いより一層の啓発を推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人後藤学園規程集</li> <li>・学校法人後藤学園個人情報保護規定</li> </ul>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人後藤学園個人情報保護規定に基づいた個人情報保護計画が策定されている。教職員は規定に従って個人情報を保護している。	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------



中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校評価は学校運営の適切性と適合性を保ち、さらなる教育の質の向上のために自主的な改善を推奨する自浄作用として機能する。学校関係者評価委員の学外委員は客観性と本校の教育への理解を兼ね備えた選任がなされ、定期的なサイクルのもとに運営されている。</p> <p>より充実したカリキュラム編成のために教育課程編成委員会を学科ごとに設置している。教育課程編成委員の学外委員は各学科の育成人材像とその職種に精通した選任がなされ、業界の動向とカリキュラムへの整合性が検討されている。昨年度よりカリキュラムの改訂についての検討に着手し、議論をされている。</p> <p>専任及び非常勤教員も含めた指導力・資質向上のため、学生に対して授業評価アンケートを実施している。結果から明らかになった課題に対して改善を図る。</p> <p>自己点検・自己評価を実施し、結果を公表することで、①現状把握 ②問題点の抽出 ③改善策の提案というマネジメントサイクルは構築出来ているが、共通認識を深めていくことが恒常的に行われるべきである。</p>	<p>武蔵野ファッションカレッジ「学則」に於いて次のように規定されている。</p> <p>〔第4条〕教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況についても自ら点検及び評価を行うものとする</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未



## 9-35 教育情報の公開

評価：4

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか		学校案内書・ホームページ等で教育情報・教育目的・教育内容・育成人材像などを掲載・公開している。 専修学校は社会の多様な要請や期待に応え、情報開示により説明責任を果たし、評価を受けることが必要である。	ホームページ更新の際に、一部遅滞が生じた。	スケジュール調整と文書の作成スケジュールの見直しを行う。	・武蔵野ファッションカレッジホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の認定要件である、教育情報の公開は武蔵野ファッションカレッジホームページに於いて行われており、常時、閲覧が可能で適切に運営されている。	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>企業にとって社会貢献への一環にSDGsへの取り組みが求められている。教育期間にとって、SDGs への取り組みによる社会貢献への意識を養成していくことは職業教育の一要素と捉えられる。様々な媒体でも頻繁にSDGs への取り組みが紹介されており、学生の意識には浸透している。</p> <p>学園として【SDGs 委員会】が発足し、それぞれの学校の取り組みの現況と今後の施策が報告されている。</p> <p>武蔵野ファッションカレッジでは、①リデュース (Reduce:削減) ②リユース(Reuse:再使用) ③リサイクル(Recycle:再資源化)の三つの R を掲げ、理解と実践の推進をしていく。一過性としなない継続した行動が必要であるが、授業の中ですでに長期に渡りアップサイクルが実現できている事例もある。</p> <p>地域貢献では、豊島区専修・各種学校協会(事務局も本学園で担当)や東京都専修・各種学校協会に理事や評議員を派遣している。また、今後は地域の方々を対象としたワークショップやキッズスクール等の開催を考え、ニーズと運営方法の調査のために併設校の学生を対象にした、ワークショップを定期的に行っている。</p>	<p>SDGs・社会貢献意識は一過性とせず問題意識を維持することが必要であり、学校には求められていることは日頃から理解を促し、貢献し易い、継続し易い環境づくりである。</p> <p>ファッションスタイリング科の授業に於いて古着を利用し、リメイクという手法でアップサイクルに繋がる作品制作を行っている。新たな付加価値を作り出すことがアップサイクルの趣旨であるため、技術的な指導以外にデザイン性・現代性に留意して授業運営を行う。</p> <p>服作りのための資源の有効利用は以前より行われているが、効率化や分別等より一層の啓発と実践に取り組み、創意工夫を凝らして新たな施策を模索する。</p> <p>複数の企業より提供を受けた、生地や服飾服資材を用い、ワークショップ・キッズスクール等での制作物の開発を行う。</p>	<p>学園として【SDGs 委員会】設置し、取り組みを継続中、委員は法人事務局と各校の管理職から成り、活動を先導していく。</p> <p>本校の特徴である【期間限定ショップ incubate】にて、リメイクで制作されて商品を販売している。販売実績は社会からの評価の一つと考えられる。</p>

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか		<p>豊島区専修・各種学校協会や東京都専修・各種学校協会に理事を派遣している。</p> <p>職業実践専門課程であるため、企業との連携授業は各学科で実施されている。</p> <p>学校施設・設備等の開放については依頼に応じて柔軟に行っている。</p> <p>高等学校への出張授業や職業理解等に講師として、積極的に教員を派遣し、実習資材の貸与も行っている。</p> <p>近隣地域の受講生等を対象にしたワークショップ・キッズスクールの開催に向け、学内での施策を実行している。</p> <p>学生には貢献し易く、継続し易い環境を提供すること、教職員には貢献し易く、継続し易い環境づくりを念頭に取り組みを推進している。</p>	<p>学校関係機関（専修学校・各種学校協会）やファッション業界と連携・交流を深めることは、人材を輩出するという直結した教育機関であるため重要である。</p> <p>社会的公器としての学校は社会と地域を構成する一員として、その設備・資源を還元すべきである。</p> <p>学生と地域社会のニーズを把握し、学生が地域貢献や地域交流に主体的に取り組んでゆけるようなプログラムの開発が課題である。</p>	<p>学校関係者評価委員・教育課程編成委員・教育協定締結企業を中心に学外との闊達な意見交換の機会を設ける。学校関係機関の研修会等に積極的に参加し、社会的な諸問題を理解した上で学校としての貢献を検討していく。</p> <p>地域社会が本校に希求するものを調査し、具体的なプログラムを立案する。併設校とコラボレーションした企画も視野に入れ、後藤学園ならではの社会貢献の在り方を考察する。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか		<p>コロナ禍により不催行であったヨーロッパ研修旅行の再開をすべく企画中である。</p> <p>留学生に関しては、現在1年生に2名、2年生に2名の合計4名を受入れている。</p>	<p>研修旅行については旅行代金の高騰が課題であり、参加者の満足度を満たせるような研修内容が求められる。</p> <p>現在、留学生に向けた専用のプログラムは備えていないが、検討していく時期である。</p>	<p>パリコレクションの視察をはじめ、実地研修等のより充実した本校ならではのプログラムを設定する。</p> <p>留学生の受入れ促進のためには入学相談室と連携し、教育内容・方法についての情報発信の在り方の定期的な確認が必要である。学園、併設校との議案とする。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の使命は主に教育活動であるが、これには地域社会、産業界、行政と連携した社会貢献活動、社会連携活動も含まれる。また、学生支援と地域貢献という観点からは個人またはクラブおよびサークル活動、そして学校を通じて、どのような活動が求められているか、ニーズとの擦り合わせが重要な課題である。継続し易く、参加し易い主体的な活動としての展開が望ましい。</p>	

最終更新日付	2023年7月31日	記載責任者	松山 由未
--------	------------	-------	-------

## 10-37 ボランティア活動

評定 3

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか		ボランティアとは自身の意思で社会のために、できることを行うことである。学生の自発的行動を主とし、学校は側面的な支援にとどまるが、その導入としてのワークショップ・キッズスクールなどで、学生のサポートスタッフの起用を提案していく。	学生の自立的・自発的な行動を尊重されるべきである。ボランティア活動への意義と趣旨の明確化と学校のスタンスの共通認識を、学生・教職員ともに共有しなければならない。	コロナ禍で交流という意識は原則を余儀なくされた。どのような形を持って、ボランティアや社会・地域貢献に学校として関わられるか、議案として検討していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティア活動の在り方は、学校の教育方針や学生のニーズあるいは地域特性等に大きく左右されるものであり、運営方針の明確化が必要である。それらの諸条件を総合的に調整し、学校の教育目的と適合性のある現実的な対応が必要とされる。	ボランティア活動などの地域貢献活動は、地域に根ざした学校づくりを目指す上で、今後も継続して検討が行われるべきである。

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未

## 4 令和4年度重点目標達成についての自己評価

令和4年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>【企業と連携し職業教育のレベルアップを目指す。】</p> <p>最優先課題は学生数の確保である。この数年コロナ禍の影響下で学生数の確保は大変難しい状況となった。物品価格の高騰も依然、注視を余儀無くされ、財政面での改善は命題である。</p> <p>令和4年度は、大きな体制の変更が行われ新たな武蔵野ファッションカレッジを確立するための基盤の構築は大きな課題であった。既存のカリキュラムの中で一人ひとりにより良い学習環境を提供することを念頭に学校運営を再確認する。職業実践専門課程の教育の質の保証のある学科として、業界と連携した職業教育の発展させることで本学の特徴を作り、入学対象者から選ばれる学校としての土台づくりに取り組む。業界で活躍する人材に、授業へ参画してもらい、教育活動と就職活動の活性化を図る。</p> <p>学園に於いて新たな発展を展望する【NEXTEP 委員会】を設置し、下部に配置したプロジェクトチームで施策の提案を行う。</p>	<p>企業との連携において、従来よりも発展的な取り組みに至ること出来た。企業側の意欲的な声もあり今後に繋がる結果となっている。特別講師として業界で活躍する人材を多数起用してきた。学生の職業理解やキャリアプランを考察する上で非常に効果的であった。職業教育協定の締結企業も充実し、強化を達成した。</p> <p>新体制となり、教員全員が学校を再興するという意識を共有し、校長主導の下、新たな武蔵野ファッションカレッジの構築が行われてきた。様々な経歴を持つ新任教員を迎え、組織的な若返りも果たした。教員一人ひとりが特長を有し、瞬発力の高いチームを構成している。大きく一步を踏み出し、礎石を築くことができた。</p> <p>他分野の併設校を持つことは学園としての大きな長所であり、各校が結束を強めることは多様な面で学園全体の活路となる。併設校の学生を対象とした、ワークショップの開催は、【NEXTEP 委員会】の教学改革の一環として、そのような目的を持って行われたが、これを社会・地域貢献へと展開していくことを目指す。</p>	<p>意欲的な施策が多数行われ、令和5年度の学生数は持ち直し、体験入学への参加数も伸びている。好転してきているが、学生数の増加とともに設備や教員数など人材の確保も視野に入れねばならない。特に設備面は将来を見越した計画性を担保する必要がある。</p> <p>定員の充足は重要であるが、学生の満足度を満たすために、施設・設備の面と教職員の適切な配置に計画性を持ってあたる必要がある。</p>

最終更新日付

2023年7月31日

記載責任者

松山 由未